



医学部再開発第一期工事竣工式と新しくなった講義棟

讃 樹 會

令和6年9月1日発行

CONTENTS

- 02 会長就任挨拶
- 03 同窓生教授就任挨拶
- 09 退任挨拶
- 12 新任教授就任挨拶
- 18 第18回讃樹會定期総会開催報告
- 19 第18回讃樹會定期総会記念講演会
- 22 第18回讃樹會定期総会議事録
- 24 令和5年度会計報告
- 25 令和6年度予算
- 26 令和6・7年度新理事一覧／組織図
- 27 ニュースの窓
- 30 理事会議事録
- 32 令和6年度研究助成金／研究奨励金 選考結果
- 33 国外留学助成金受賞の言葉
- 34 特集／学生が主導する新たな医学部広報活動
- 36 関連病院だより
- 39 支部会・懇親会
- 44 学生短期留学報告
- 47 教室だより
- 53 編集後記／事務局からのお知らせ

発行 香川大学医学部医学科同窓会讃樹會
 〒761-0793 香川県木田郡三木町池戸1750-1
 TEL/FAX 087-840-2291
 E-mail mddousou@kagawa-u.ac.jp
<https://dousoukai.site/sanjukai/>

発行人 星川 広史
 編集人 谷 文二
 印刷所 株式会社



会長就任挨拶

会長就任のご挨拶

讃樹會のみなさまへ



香川大学医学部讃樹會会長 星川 広史

(平成2年卒・5期生)

卒業生の皆さま方におかれましては平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

先だって開催されました讃樹會総会におきまして、同窓会長の信任をいただきましたこと、心から感謝申し上げます。

さて、所信表明にも述べさせていただきましたが、これからの香川大学医学部ならびに附属病院は極めて厳しい状況に置かれるものと覚悟しております。日本を覆う人口減少の波は決してくつがえすことのできない社会現象であり、少子化に伴う教育機関の統廃合は必然です。それに伴う人材不足と高齢化・疾病構造の変化が相まって、医療機関の集約や機能分化も避けて通ることのできない命題です。

そのような現実の中、つつい後ろ向きな気持ちになることも多いのですが、先日昔は自衛隊の航空管制官をしており、いまはカイロプラクティシャンとして開業されている女性と知り合い、彼女は日本全国10か所で暮らした経験があるが、香川が断トツ暮らしやすい！とほめてくださいました。香川県は日本一小さい県でありながら、可住面積率は高く、道路網は極めて発達しています。様々な医療指数においても、医師数、看護師数、救急病院数などは日本でも上位にあります。地震も含めた災害の少なさでも日本で1、2を争う安全な地であることも、県民の災害意識の低さが証明しています。私たちは恵まれた環境にいることにまずは感謝し、そしてそのような優位性を活かすための施策を香川大学が中心となって一つずつ実行することで、私たちがなくてはならない存在であることを認識させること、それが生き残る道だと確信しております。

庵治半島の海が見える場所に、新しいコンセプトのうどん屋さんができています。



by age 18 : Common sense is the collection of prejudices acquired by age eighteen. というアインシュタインの言葉からつけたそうで、常識にとられない新しい概念から創作した、小麦粉やいりこなどを使わない新たなさぬきうどん・・・最近すっかり丸亀製麺にハッキングされた感のうどんですが、誰にもまねのできない、香川でしか経験できないもの、をうどんだけではなく、生み出せていければと思います。

医学部・附属病院の発展は同窓会の支援なくしてはあり得ません。歴史は浅く、卒業生の数では他大学には太刀打ちできませんが、その分出来てからこれまでをリアルに共有できる強みがあります。みなさま方に現在の姿、近未来の姿、その先のヴィジョンを共有していただけるよう、まずは情報共有のあり方を再整備するところに注力いたします。そして、ホームカミングデイ、支部会、各学年の同窓会など、同窓のみなさまが集う機会を増やし、なにより若い人たちが参画しやすい、したいと思う方策を講じてまいります。

同窓会の活動を通じて、持続可能な地域社会の核として我々が貢献できるよう、何卒お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

平成6年7月吉日

同窓生教授就任挨拶

ご挨拶



岡山大学病院 乳腺・内分泌外科

教授 ^{しえん} 枝園 ^{ただひこ} 忠彦 (平成11年卒・14期生)

香川大学医学部医学科同窓会・讃樹會の先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。この度2023年（令和5年）10月1日付けで、岡山大学病院 乳腺・内分泌外科 教授を拝命いたしましたので、ご挨拶申し上げます。

私は1999年（平成11年）に香川医科大学を卒業いたしました。学生時代は映画研究会および水泳部に所属し、ちょうど1年生の水泳部の西医体の大会中に角岡潔先生と小川太先生より勧誘をいただきまして漕艇部に入部いたしました。そのご縁で生理学の森田啓之先生（高知県人会など）に大変お世話になることとなり、その後の私の大学生活は有意義で楽しいものになりました。漕艇部はその後廃部となりましたが、いまだに漕艇部の先輩方や森田先生には、仲良くしていただいております。私もそれなりの年齢になりましたが、先輩方や森田先生とご一緒させていただくと気分はすぐに大学時代に戻れて大変元気が出ます。

私は卒業後、香川県出身者であるにもかかわらず（高校の大先輩である第一外科の臼杵尚志先生には本当に大変勧誘していただきました）岡山大学医学部第二外科教室（現・呼吸器乳腺内分泌外科）に入局いたしました。岡山という土地には実は全くなじみがかかったのですが、岡山大学の医局に入局した同級生が多く、特に仲の良かった岡牧郎先生（小児神経科）、小谷恭弘先生（心臓血管外科）とはお互い励ましあいながら、それぞれ頑張っていました。この二人がいたから、私が岡山大学で頑張ることができ、今回このような職位をいただけることになったともいえると思います。入局後は大学病院および三豊総合病院で外科の基礎を学び、大学院で乳腺内分泌グループに配属となり土井原博義前教授のもとで研究させていただきました。その後、国立がん研究センター中央病院に国内留学し、外科レジデントおよびそ

の後乳腺外科専攻のがん専門修練医として専門技術を習得、多くの全国の若手研究者と交流を深めました。研究においても、国立がん研究センターの膨大なデータから多くの臨床研究を発表させていただき、特にJCOG乳がんグループにおいては多施設前向きランダム化比較試験の研究事務局を始めることができました。それがきっかけで、岡山大学帰局後も引き続きJCOG乳がんグループの活動にかかわり、またグループ事務局を10年間務めた後このたび令和6年よりグループ代表として乳がんグループを率いることとなりました。

乳がんは本邦で年間10万人を超える女性が罹患する悪性腫瘍です。特に、50歳前後の比較的若い世代の女性が多く罹患する社会的に影響の大きい疾患です。他方、集学的治療により治療は非常に進歩しております。新規治療の恩恵を地域の皆様方にいち早くお届けするとともに、日本から世界に向けて新しいエビデンスを発信していけるように尽力してまいりたいと思います。また、地域にお役に立てる乳腺外科医を多く輩出できるよう、若手の指導にも力を入れてまいりたいと存じます。

末筆となりましたが、私のような生意気な学生を温かく教え導いていただきました恩師の先生方に心より感謝申し上げます。

略歴

| | |
|---------|--------------------------------------|
| 平成11年3月 | 香川医科大学医学部卒業 |
| 平成11年4月 | 岡山大学医学部附属病院第二外科 (現：呼吸器・乳腺内分泌外科入局) |
| 平成11年9月 | 三豊総合病院 外科医師 |
| 平成15年9月 | 国立がん研究センター中央病院 外科レジデント |
| 平成17年3月 | 岡山大学大学院医学研究科（第二外科講座）修了 |
| 平成18年4月 | 国立がん研究センター中央病院 がん専門修練医（乳腺外科） |
| 平成20年4月 | 岡山大学病院医員（呼吸器・乳腺内分泌外科） |
| 平成20年7月 | 岡山大学病院助教（呼吸器・乳腺内分泌外科） |
| 平成30年4月 | 岡山大学病院 乳腺・内分泌外科 講師 |
| 令和4年4月 | 岡山大学病院 乳腺・内分泌外科 准教授、同診療科長 |
| 令和5年10月 | 岡山大学病院 乳腺・内分泌外科 教授 |

教授就任にあたって

～これからのミライを担う後輩たちへ～

三重大学医学部附属病院 乳腺センターセンター長／
乳腺外科学 教授

かわぐち こうすけ
河口 浩介 (平成18年卒・21期生)



若手が育ち輝く医局へ



2024年1月1日付にて三重大学医学部附属病院 乳腺センター センター長／乳腺外科の教授に就任いたしました、21期生の河口浩介と申します。同窓会誌へこのような寄稿をさせていただく機会を頂き、心から感謝しております。

教授就任後、さまざまな寄稿の機会をいただいておりますが、今回は母校への就任挨拶ということで、飾らず率直に後輩たちに伝えられればと思います。

私は2000年に香川大学医学部医学科に入学し、6年間バスケットボールと飲み会に全てを費やしました。振り返れば反省点しかない学生時代でしたが、良き友人・先輩・後輩に恵まれ、無事卒業することができました。この場を借りて感謝申し上げます。

2008年に京都大学乳腺外科に入局した当初は、医学的知識不足を痛感する日々でした。実際指導医の先生方に、「河口の存在は日本の医学教育の敗北の象徴だ」

と言われるほどでした。しかし、師である先生方が辛抱強く指導してくださいました。若手教育に力を注ぎたいと決意したのも、そのお陰です。

専門医取得後は京都大学大学院に進み、ハーバード医科大学に研究留学をしました。私にとっては精神と時の部屋^{*1}で修行をしているような感覚で気が狂いそうな厳しい日々でしたが、家族の支えとバスケットボール部で鍛えた体力のお陰で乗り越えることができました。

留学後は京都大学で助教として5年間勤務し、大学院生の指導に携わりました。この期間は私にとって非常に貴重な経験となりました。指導にあたり、以下の5つのルールを心がけました：

1. 可能な限り研究費に応募し、獲得した範囲内で研究を行う。
2. 自分の限界を超えた課題に学生と共にチャレンジする。

3. 個人ではなく、チームとして取り組む。
4. 信頼関係を最も大切にす。
5. 固定観念にとらわれず、柔軟な発想を持つ。

結果として、大学院生たちは目覚ましい成長を遂げ、順調に学位を取得しました。彼らの成長を間近で見届けられたことは、何にも代えがたい喜びでした。昨年に教授選のお話を頂いた時にも、「まだ自分には早いな」と思いましたが、臨床も研究も教育も出来るポジションということで応募させていただくことになりました。

さて、若手の先生方に最も伝えたいことは、皆さんには無限の可能性があるということです。そして、その未来は自分たちの手で築いていけるのです。これは若い世代だけに与えられた特権です。時に、周囲からネガティブな言葉をかけられることもあるかもしれませんが。一部のベテラン大人達は先生達の未来を邪魔しに来ます。「どうせ無理」「できるわけがない」などの言葉で妨害しに来るのです。皆さんの未来が羨ましいからでしょうか。

私が一生忘れないのは乳腺外科に進むと決めた時に、とある先生から「乳腺なんて男のやる仕事ではない、情けない」と言われました。本当にショックでした。

なぜ男がやってはいけないのか、なぜ情けないのかさっぱり分かりませんでしたし、今も全くわかりません。ただ、そのような中傷をされたことに本当に心が傷ついたことだけは明瞭に覚えています。また、訳の分からない陰湿なパワーハラスメントにも苦しめられた期間がありました。

しかし、そういった声に惑わされることなく、自分の信じる道を進んでいってください。良き先輩たちの助言を得ながら、これからの未来に向かって前進してください。努力し、実績を積み重ね、謙虚に前進すれば、必ず周りが評価してくれると信じています。微力ながら、私もお手伝いさせていただければ幸いです。

不出来な私を育ててくれた香川大学には心から感謝しております。まだまだ若輩者ではございますが、これからの日本の乳腺診療の発展と若手教育に尽力してまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。

(*¹日本の人気漫画『ドラゴンボール』シリーズに登場する架空の場所。時間が通常の時間の流れよりも速く進む特別な部屋。1日が1年に相当する。)

略歴

| | |
|----------|----------------------------------|
| 平成18年3月 | 香川大学医学部卒業 |
| 平成18年4月 | 日本赤十字社和歌山医療センター |
| 平成20年4月 | 京都大学医学部附属病院 乳腺外科 専攻医 |
| 平成21年4月 | 大阪赤十字病院 外科 医員 |
| 平成28年4月 | 京都大学医学部附属病院 乳腺外科 医員 |
| 平成28年10月 | ハーバード医科大学 腫瘍生物学 研究員 |
| 平成28年10月 | マサチューセッツ総合病院 放射線腫瘍生物部門 研究員 |
| 平成30年4月 | 日本学術振興会 海外特別研究員 |
| 平成30年9月 | 京都大学医学部附属病院 乳腺外科 助教 |
| 令和5年7月 | 京都大学医学部附属病院 乳腺外科 病院講師 |
| 令和6年1月 | 三重大学医学部附属病院 乳腺センター センター長/乳腺外科 教授 |

教授就任にあたって

「人・心・夢が集う教室」を目指して



香川大学医学部 消化器・神経内科学 教授

こばら ひでき
小原 英幹 (平成9年卒・12期生)

令和6年4月より消化器・神経内科学講座の第4代教授を拝命致しました小原 英幹です。讃樹會の同窓の先生方には平素よりご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。

わたくしは、平成9年香川大学（旧香川医科大学）を卒業し、消化器・神経内科（旧第三内科）に入局以降、消化器疾患を含む内科学全般に関して幅広く臨床技能を研鑽して参りました。主に内視鏡治療技術とその学術力を磨き、アピールすることで、県内外から高難度例を中心に数多くの患者様をご紹介頂いております。学術活動のみならず、諸外国の先生方とのパートナーシップを築くためにリーダーシップを発揮し、本学のグローバル化にも貢献したいと考えております。

私達の講座は、「臨床に強い・独自性を育む・垣根のない教室」の特色を活かして教育・研究・診療のタスクを各教室員が適材適所に活躍できるような組織体制の構築に動いております。

【教育面】では、「自主性」「リーダーシップ」「リサーチマインド」の養成に注力し、豊かな人間性を有する人材の育成を目指しております。卒後ひとりでも多く、母校に在籍してもらえるように教室員が学生と密に関わり、ヒトとヒトの繋がりが生まれる環境の整備や学生が求めるニーズの把握が重要と考えております。卒後研修では、バランスよく多様な疾患を担当できるように、各卒後研修医に1名の指導医がつく屋根瓦教育を採用してござ

す。関連病院においては当教室より複数名が常勤医として派遣されているため、研修医が安心して研修できる体制の構築に努めております。また、卒後5年以降のビジョンを描けるように臨床スキルの習得に重点を置いた卒後10年プログラム（図1）を作成しております。さらに、ライフイベントに合わせて女性医師が働きやすいバックアップ体制も整えております。

【研究面】では、「新規性のある研究の世界発信」を理念とし、時代の潮流に合った機器開発と異分野融合研究のグレードアップを図っております。また、基礎系講座との横断的研究をスタートアップし、細胞内の根源的な情報にもその研究領域を広げ、基礎から臨床への切れ目のない学問体系の確立を目指しております。教室員の個性を見極め、自主性を尊重するとともに1医師1研究を推奨しております。個々がアカデミアに勤める責務として“*No job is finished till the paperwork is done!*”の意識を持って、講座と大学の更なる活性化ならびに、母校全体の底上げに貢献して参ります。

【診療面】では、「心のこもった確かな技術（卓越したアート）で、治す」を理念とし、良質・安全・高度

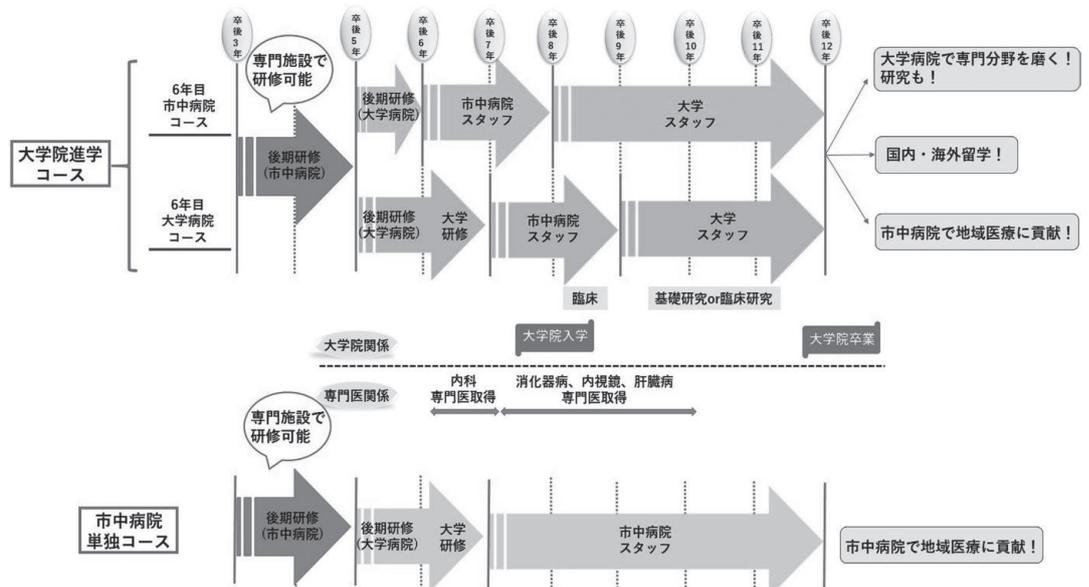


図1：卒後10年プログラム

な医療を地域に提供するために大学病院としての使命を果たしたいと考えております。近年の消化器疾患は、ピロリ除菌による胃癌罹患率の減少、経口抗ウイルス薬によるC型肝炎の治癒により対象となる疾患群が、大腸癌、膵癌、生活習慣病関連肝疾患へと変遷しております。私達が考える診療の第一目標は、“潮流に合った特色のある専門診療を掲げ、患者の命を救うこと”を目指しております。

- 消化管グループでは、高度医療機器を扱う低侵襲内視鏡治療外来、女性内視鏡外来により女性を大腸癌から守る取り組みや、ニーズの高い便秘専門外来を開設し、諸科連携による総合的診療を心掛けております。
- 肝臓グループでは、肝臓の集学的治療の強化に加えて今後の肝臓診療のコアとしてメタボリックシンドロームが関与する非アルコール性脂肪肝炎の診療に注力して参ります。
- 胆膵グループでは、難治がんの膵臓に関して、新設された膵臓・胆道センターの1部門として、早期発見を目指した膵臓検診に力点を置いた仕組みの構築を図っております。
- 脳神経内科グループでは、変性、自己免疫などを扱う神経内科専門医を充実させ、センターの開設や県西部連携機関の拠点化に取り組んでおります。

【目指す未来像】としてヒト・モノが循環するネットワーク構築を掲げ、全教室員が同じ目標を目指して参ります(図2)。まず、地固めの一環として大学が中心となって関連病院との地域医療の充実化、研修体

制のシステム化を図って参ります。次に県外機関とは共同研究、留学を更にグレードアップさせ、世界には、国際交流等に関わる特殊人材を育て派遣して参ります。また、香川大学発信の医療機器や新規治療法を世界へ展開したいと考えております。

サブキャッチフレーズとして①患者・コメディカルに優しい人間力②クイックレスポンスは出来る人③一医師一後進を仲間に、を明瞭な指針として掲げ、透明感のある教室作りを目指して参ります。そして、母校、香川大学に恩返しできるように掲げた目標を必ず、有言実行して参ります。

今後とも同窓会の先生方には温かいご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

略歴

| | |
|----------|---------------------------------|
| 平成9年5月 | 香川医科大学医学部卒業 |
| 平成9年10月 | 香川県立中央病院 内科 嘱託医 |
| 平成11年10月 | 香川医科大学医学部附属病院 医員 |
| 平成15年10月 | 坂出市立病院 消化器内科 医長 |
| 平成21年9月 | 香川労災病院 消化器内科 副部長 ・平成22年9月～部長 |
| 平成23年4月 | 香川大学医学部附属病院 助教 |
| 平成24年11月 | 香川大学医学部附属病院 講師 |
| 令和6年4月 | 香川大学医学部 消化器・神経内科学 教授 |

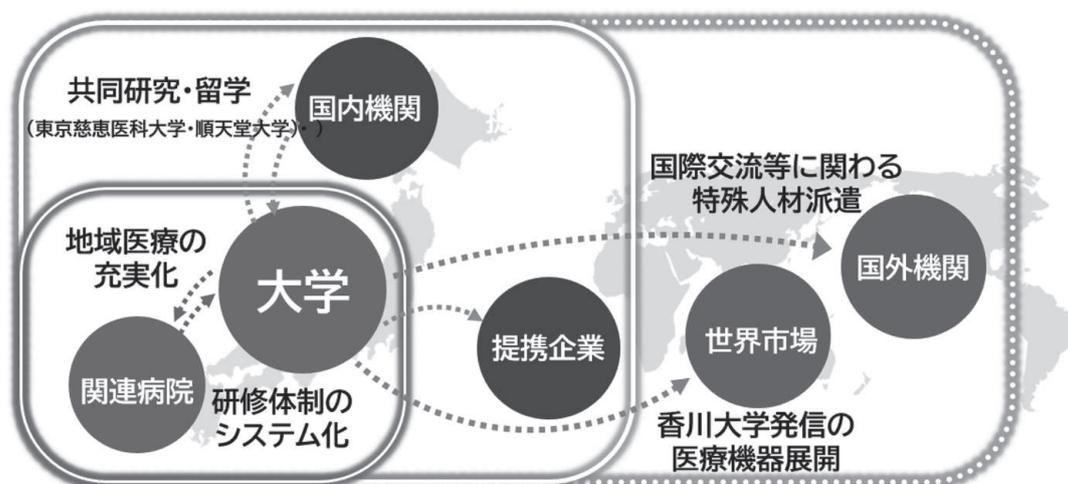


図2：目指す未来像の概要

教授就任にあたって

「経験を活かし、地域の隅々まで医療を届ける」

香川大学医学部 総合診療学教授

いちき ともこ
市来 智子 (平成9年卒・12期生)



皆さま初めまして、この度「総合診療科」の教授を拝命しました市来と申します。平成9年に香川医科大学を卒業し、26年の留学を経て香川に戻って参りました。

大学卒業時「この地に戻ってくることはないんだな」「実家の鹿児島で一生を終えるのかな」と思いながら循環器内科を専攻した私ですが、なぜ『香川で』『総合診療を』ということになったのかお話しいたします。

鹿児島大学第一内科に入局すると同期が20人おり、循環器・呼吸器・代謝内分泌・血液・膠原病・心療内科と幅広い分野の研修が始まりました。3年目以降でへき地勤務となりますが、海岸のへき地である阿久根市民病院は、東シナ海に沈む夕日が美しい病院で、海の幸を楽しみながら様々な科の若手と交流し、気軽に診療相談できる環境が楽しかったです。この経験が総合診療をのちに選ぶ原点の一つとなりました。1年も経たずに鹿児島市中心部の循環器3次救急を行う病院に呼び戻されましたが、その後大学院入学・学位取得に至りました。

学位指導してくださった先生の縁でアメリカ・メイヨークリニックの研究室に留学し、心不全の病態生理・新薬開発のための基礎・臨床研究を行いました。メイヨークリニックはミネソタ州の田舎にあり、留学生にも優しく安全な土地で、夜中まで実験して帰宅しても怖くない、アメリカでは稀な環境でした。現地の医療・地方の介護事情と接する機会もあり、高度医療はお金持ちのもので、一般のアメリカ人は高度医療を受けることなく、介護ホームなどで余生を送っているのを知りました。欧米では日本のように胃瘻や中心静脈栄養で寝たきりの患者は存在せず、動けなくなり経口で栄養を摂れなくなったときが寿命だと、受け入れているのが印象的で、文化の違いを感じました。

留学中は研究費を順調に獲得できたため10年近くアメリカで過ごしました。就労ビザの期限が近くなり、グリーンカード（永住権）取得を勧められましたが、臨床を再開するために帰国することに決めました。しかし出身の鹿児島大学ではスタッフ枠がないと断られ、まさかその後日本各地を転々とする生活が待っているとは思いませんでした。

新設医学部が出来た国際医療福祉大学で教員を募集していたため、雇ってもらえましたが、大学病院は建設中とのことで栃木のへき地関連病院にまず就職しました。アメリカ留学中、循環器関連の臨床知識や患者経験はありましたが、その他の臨床については離れて久しく、様々な薬が増え、紙カルテが電子カルテに変わっており、正に『浦島太郎』状態でした。上司が理解のある方で、この浦島太郎を根気よく指導してくれました。出産・育児等で数年ブランクがある方にはこのような指導が必要だと身をもって体験しました。地域の中核病院でしたので、外来・入院・救急・介護医

療と地域包括ケアシステムへの関わりを学び直すいい機会ともなりました。

その後成田の大学病院へ移り、医学部講師として医学教育に携わる機会も増えていきましたが、研究はできませんでした。これからの人生設計に悩んでいたところ、アメリカ留学時代の友人が札幌医科大学総合診療の教授となり、一緒に総合診療で研究分野を開拓しないかという嬉しいお誘いがありました。セカンドキャリアとしての総合診療医の臨床にも興味があり、札幌医科大学に転職しました。この総合診療へのリスク教育は自分で想像したよりも遥かに大変で、内科専門科とは視点も教育も全く違う別世界でした。

昨年上司と共に滋賀医科大学の総合診療立ち上げで異動した直後に、香川大学総合診療科教授選へのお話がありました。自分のこれまでの経験、へき地での医療、海外での研究指導や、留学後のリカレント教育・総合診療へのリスク教育や、帰国後は一貫して医学教育に携わっていること、総合診療の視点と専門診療科としての循環器内科医の視点を併せ持つことなど、香川の総合診療立ち上げに生かすことができると自負しています。

卒業後様々な土地で讃岐うどんを求めて彷徨っていましたが、今はいつでも讃岐うどんを味わえる幸せを満喫しています。私の人生、このまま孤独に日本各地をクラゲのように漂っていくものなのかと悲嘆に暮れていた時、手を差し伸べてくれたのは、香川の先輩・同級生でした。若い皆さん、「Everything is connected to everything else」- 紆余曲折し、苦勞しただけのように思っても、無駄なことはありません。人との繋がりを大切に、与えられた役割を地道に果たしていれば、道は必ず拓けるんですよ、大丈夫！

私を受け入れてくれた香川の皆様に、「若い総合診療医を育て、地域の隅々まで医療を届ける」ことを目標に、定年まで恩返しをしていきます。何かと行き届かない点はあるかと思いますが、皆さまのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

略歴

| | |
|---------|-----------------------|
| 平成9年3月 | 香川医科大学 卒業 |
| 平成20年3月 | 鹿児島大学大学院修了 医学博士取得 |
| 平成20年4月 | メイヨークリニック 循環器科 研究生 |
| 平成23年5月 | メイヨークリニック 内科 助教 |
| 平成27年5月 | メイヨークリニック 内科 准教授 |
| 平成29年8月 | 国際医療福祉大学医学部循環器内科 講師 |
| 令和3年5月 | 札幌医科大学総合診療医学講座 講師 |
| 令和5年4月 | 滋賀医科大学附属病院総合診療科 特任准教授 |
| 令和6年4月 | 香川大学医学部総合診療科 教授 (現職) |

退任挨拶

医学部教授退任挨拶

～母校の皆様ありがとうございました～

香川大学名誉教授

舩形 尚 (昭和61年卒・1期生)

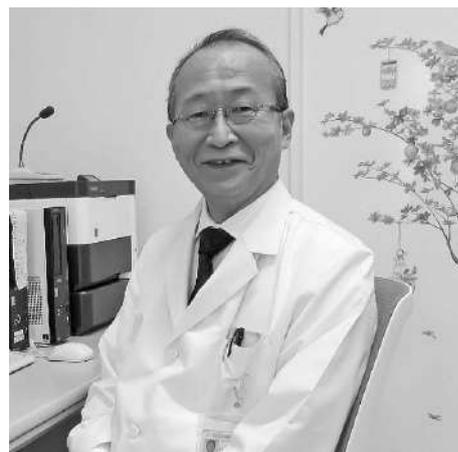
令和6年3月末に医学部附属病院総合内科を定年退職しました舩形尚(ますがたひさし)と申します。皆様、長い間お世話になりました。香川医科大学に入学して医師に育てていただき、昭和61年に卒業後は医学部附属病院第二内科(現在の循環器・腎臓・脳卒中内科)に入局して1年間附属病院で研修させていただきました。2年目からは医局人事によって香川井下病院内科で2年間内科一般について研修し、大阪労災病院循環器内科では2年間循環器疾患を中心に研修させていただきました。平成2年に医学部附属病院の循環器内科医員に採用されました。カッコいい心臓カテーテル医師にあこがれて循環器内科に入局しましたが自然と心臓エコーなど非侵襲的な検査に興味を惹かれるようになりました。おかげさまで平成10年から2年間、米国カリフォルニア大学サンディエゴ校に研究員として留学し、香川大学には2年間研究休職をさせていただきました。主に心臓エコーの造影検査画像診断研究に携わらせていただいたことは素晴らしい思い出です。

平成16年からは坂出市立病院内科で2年間お世話になり、総合内科や総合診療へ進む動機付けとなる教育をしていただきました。高齢者医療やいわゆる一般内科にも関心を持てるようになり忙しくも楽しい毎日でした。循環器内科医長という役職をいただきましたが、当時坂出市立病院内科に赴任していた医局の先輩で脳卒中専門医だった綾田先生に「おまえの夢は破れたんや、おまえは循環器やないぞ、老年内科にむいてるぞ」と病棟で言われ、はっとした記憶があります。そのころようやく私は循環器学会などに出席したときに脳心腎連関という言葉を知るようになり、「脳心腎連関ならば総合だ」などと無理に勝手にこじつけていました。思いがけず平成18年香川大学医学部附属病院総合診療部講師に採用されたときは天にも昇る気持ちでした。当時の総合診療部は病棟が開設された頃であり、がん患者さん中心に様々な患者さんが入院されており、全診療科の皆様に対診などご指導いただきました。当時は循環器疾患とがん診療は全く関係のない領域のように思われた時代でしたが、何故かそれでも楽しい毎日でした。平成24年に医師ジェネラルリスクマネジャーを拝命し、医療安全の業務にも従事しました。平成26年に総合内科が開設されました時に診療科長を拝命し、また地域連携室(現在の総合地域医療連携センター)長も拝命し、身の引き締まる思いでした。どのような仕事も他職種の方のご指導が得られ

て大変ありがたい環境に置かれ、新しい知識が増える喜びの毎日でした。全く新しい仕事に踏み込むことは効率的でないリスクはありますが、「道、此の道を行けばどうなるのかと危ぶむな

かれ、ふみ出せばその一足が道となる、行けばわかるよ」という清沢哲夫氏の詩には癒されます。子供のころ好きだったプロレスラー・アントニオ猪木さんが引退セレモニーで作った言葉だと最近まで誤解していました。長い間、大学病院内外の皆様からご指導、ご支援を賜りまして感謝の気持ちでいっぱいです。総合内科、医療安全、地域連携と大変貴重な勉強をさせていただきましたことを心より御礼申し上げます。

同窓会の皆様には学生時代からご指導お世話いただきました感謝の念に堪えません。学生時代は空手道部の練習、国家試験の勉強会など語り切れない多くの思い出をありがとうございました。高校まで空手をしたことはありませんでしたが、遠征、合宿など本当に楽しかったです。全くボランティアでご指導いただいた谷派糸東流空手・多田師範には感謝の気持ちでいっぱいです。先生は「医学部は勉強が優先だから忙しい時は無理しなくていい、ただ続けなさい」とおっしゃっていただけの優しい先生でした。学生時代の一番の思い出は、やはり講義や医学実習です。苦しくもあり、楽しかった授業を緊張しながら臨床講義棟で受けていた頃が今も懐かしく思い出されます。時の流れのなかでお世話になった皆様のご恩を忘れがちになり申し訳ありません。平成27年の私の就任祝いパーティに遠路ご出席いただきました同期の皆様ありがとうございました。最近、記念写真を再度拝見しましたが懐かしくありがたく思います。十分なお礼のご挨拶ができず申し訳ありませんでした。この場をお借りしてお詫び申し上げます。最後になりましたが、皆様のご健勝、ご活躍、同窓会のご発展、香川大学医学部のご発展をお祈りいたしまして退任のご挨拶とさせていただきます。



退任の御挨拶

香川大学名誉教授
香川済生会病院臨床研修センター長

正木 勉 (平成2年卒・5期生)

16年前、教授就任時、退官まで遙か彼方、されど退官までの16年間振り返れば一瞬でした。就任時、消化器・脳神経内科学教室は、まさに原野でした。しかし教授就任時に、高台から、広い原野を望むと、所々に、ヒトが見え、夕方にもなると至る所で煙が立ち上る、そのような風景を見ていました。私の脳裏に、この原野に散らばったヒトを一つの場所に集まるとかなりの手勢になる。これは何とかなる、ほんの微かではあったが、この人の力で未来の発展の予感を感じていました。退官がもう間近かに迫る中、毎年出されている同門会誌の挨拶の言葉の1年目から最終の16年目にわたる文章を書いていた。読み返すと、年月が経つにつれ、原野に高層ビルが建ち、高速道路も作ることができた風景を見ることができました。同門会誌の挨拶の言葉のキーワードは、論文業績、学会発表、人材確保、関連病院の充実、地域医療にありました。

16年前、決してエリート軍団であるとは、評価されていなかった当教室が、今や大学で、出向医局員を含めた医局員、研究業績、文部省の科学研究費数、学位取得者数、関連病院への医師派遣数は、消化器・神経内科が、紛れもなく香川大学医学部の最大・最強の医局に、この16年間で、躍り出たと思います。

教室に多くのヒトが集まり、全ての教室員が、より高みを目指して、教室員が平坦な道ではなく、坂道を選択したからだと思っています。真摯な教室員のお陰で、教授として成功させていただいたと深く感謝しています。そして、就任直後の予測を遙かに超えた業績集を見て、私は、香川大学消化器・脳神経内科の教授としては、完全に燃え尽きたと感じています。

入学時、1984年バブルの兆しが見え始めたころ、現

役生と比較し7年遅れの香川医大入学。そして、卒業後18年で臨床医学で初の教授就任、それは、ある意味、同窓生に夢と希望が与えられたと思っています。私が教授になった際には、香川医大卒の教授は、現学部長の薬理学教授 西山成先生だけででした。それが今では、多くの香川医大卒の優秀な教授を輩出しております。本人らの努力もありますが、全国に散らばっている同窓生、そして、香川大学医学部医学科同窓会の力があつたと思います。この同窓会を立ち上げた、第一期生濱本龍七郎先生の底力には感服すると同時に、現会長であり、同級生でもある星川広史先生には、なお一層、同窓会を発展させていただきたいと切に願っております。

香川医大を卒業し、医師になって34年、臨床の要といふべき内科学の教授になって16年、特にここ16年間には、ドラマにもなりそうな激しい戦いがありました。限りある力でしたが、私の役目は、十分に果たせたと思っています。そのような意味において、『老兵は死なず、ただ消え去るのみ』といった心境です。

今後、香川医大卒業生の小原英幹教授の下で、消化器・脳神経内科学講座、香川大学医学部の必ず訪れる更なる発展を外から、ゆっくりと見させてもらいます。同窓生の皆様、香川医大を入学後40年間、本当にありがとうございました。



新任教授就任挨拶

教授就任にあたって

メンターとの出会いとゲノム・遺伝医療の発展に向けて



香川大学医学部生体分子医学講座
ゲノム医科学・遺伝医学 教授

くまもと けんすけ
隈元 謙介

令和6年1月1日付けで生体分子医学講座ゲノム医科学・遺伝医学教室の教授を拜命いたしました隈元謙介と申します。私は神奈川県小田原市出身で1995年に福島県立医科大学医学部を卒業しています。香川大学には2018年4月より鈴木康之前教授（現名誉教授）の温かいご指導のもと消化器外科学に勤務しておりました。日頃より讃樹會の先生方には患者様のご紹介を含め大変お世話になっておりましたもののきちんとご挨拶できる機会がなく申し訳ございませんでした。今回誌面ではございますが、このような形でご挨拶させていただくことができました大変光栄に存じます。

新設されました教室ですので、初めてお聞きになる先生方もいらっしゃるかと存じます。1990年から2003年まで費やした「ヒトゲノム計画」から2005年の次世代シーケンサーの開発に始まる近年の遺伝子解析の技術革新のおかげで、様々な疾患の診断・治療に遺伝子検査が日常診療のなかで実施されるようになってきました。癌診療においてもパラダイムシフトが起きて遺伝子検査の結果から効果のある治療薬の選択が行われるようになり個別化医療が加速しています。この個別化医療において個人のゲノム情報は必要不可欠となっています。この時代の趨勢をいち早く学部教育、基礎医学研究、診療に反映するべきことが当教室の使命と考えています。

私が医学部を志し外科医になりましたのは、当時不治の病と考えられていた癌治療に関心を持ったことであります。外科医として働き始めたときの癌の手術といえば、お腹を大きく切開して出血などもあまり気にせず腫瘍を取りきることががんを治すことでありましたが、今では小さな切開でほとんど出血せずに神経も温存する腹腔鏡やロボット支援下手術が主流になっており、この30年で外科学も大きな変革を遂げています。この間、手術の指導は増田幸藏先生（東京厚生年金病院）や星野正美先生（大原総合病院）、石田秀行教授（埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科）、そして会津医療センターの遠藤俊吾教授と行く

先々で超一流のメンターから指導を受け、私自身、医師として進むべき道を学ぶことができました。

また、癌治療のための当時の癌研究は、外科医が腫瘍を切除してその癌組織を用いて癌関連遺伝子の発見やその機能解析が盛んに行われていました。大学院生時代は愛知県がんセンター研究所に国内留学して第2病理学の神奈木玲児先生のご指導の下、癌転移における血行性転移のメカニズムに関わる糖鎖抗原合成の律速になる分子の研究に従事しました。さらに癌細胞が、低酸素環境下で転移性糖鎖抗原の合成が促されより強く転移能を獲得していることを見出し感動していたことも懐かしく感じます。その後、アメリカのNIHに留学する機会をえて、癌におけるTP53変異を発見したCurtis C. Harris先生の薫陶を受け、4年間にわたり発癌機構に関わるTP53遺伝子の関連遺伝子について研究してきました。このような基礎医学研究をベースにして、埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科の石田秀行教授のもとで遺伝性大腸癌の診療に関わることができましたことは振り返れば必然であったのだと思います。

令和5年6月に「良質かつ適切なゲノム医療を国民が安心して受けられるようにするための施策の総合的かつ計画的な推進に関する法律」が施行されました。こうした環境整備が進むことで今後ゲノム医療や遺伝医療の発展が加速することは間違いありません。香川大学では地域を支える基幹施設としてこの分野を牽引していき県民の健康管理に努めていくために我々の教室が中心になりゲノム解析から遺伝診療、そしてサーベイランス、さらには基礎医学と臨床医学を融合して最先端の技術による最新の情報を発信して参ります。また、私が多くのメンターに出会い今があるように私もメンターとして次世代を担う若者の教育にも取り組み、日本における基礎医学研究を礎として世界の最先端をいく医学研究施設で活躍できる人材の育成を目指していきたいと考えています。

最後に、当教室の運営を始めるにあたり温かいご支

援を賜りました消化器外科の岡野教授、前医学部長の三木教授、現医学部長の西山教授、病院長の門脇教授、消化器内科の正木名誉教授、讃樹會会長でもある星川教授はじめ香川大学医学部のために尽力されている先

生方に厚く御礼を申し上げますとともに、讃樹會の皆様におかれましては、教室の発展のためにお力添えいただけますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

略歴

- 平成7年3月 福島県立医科大学医学部卒業
- 平成7年5月 東京厚生年金病院外科 研修
- 平成9年4月 福島県立医科大学第二外科 診療医
- 平成9年12月 愛知県がんセンター研究所第二病理学 研究員
- 平成13年3月 福島県立医科大学大学院医学研究科修了
- 平成14年4月 大原総合病院外科 医員
- 平成16年1月 米国NIH国立がん研究所発がん研究室 Visiting Fellow
- 平成19年10月 福島県立医科大学第二外科 助教
- 平成21年4月 福島県立医科大学器官制御外科 助教
- 平成21年10月 埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科 講師
- 平成25年4月 福島県立医科大学器官制御外科 助教
- 平成25年6月 福島県立医科大学器官制御外科 講師
- 平成27年4月 福島県立医科大学会津医療センター小腸・大腸肛門科 准教授
- 平成30年4月 香川大学医学部消化器外科 講師
- 令和3年4月 香川大学医学部附属病院手術部 准教授
- 令和3年6月 香川大学医学部附属病院臨床遺伝ゲノム診療科 診療科長
- 令和5年4月 香川大学医学部附属病院手術部 部長
- 令和6年1月 香川大学医学部生体分子医学講座ゲノム医科学・遺伝医学 教授

教授就任にあたって

たゆまぬ挑戦 ～未知を探求する楽しみ～



香川大学医学部 生化学 教授

いわぶち みき
岩部 美紀

香川大学医学部医学科同窓会讃樹會の皆様におかれましては、このようなご挨拶の機会を頂きまして、誠にありがとうございます。令和6年4月1日付けで、香川大学医学部生化学教授を拝命いたしました岩部美紀と申します。讃樹會、香川大学の諸先生をはじめ、本当に多くの皆様方におかれましては、20年ぶりに故郷に戻って参りました私を大変温かく迎えて下さり、心より感謝申し上げます。

香川大学医学部生化学講座は、昭和55年4月1日に開設され、初代教授として、市川 佳幸先生が就任されました。次いで、平成13年1月1日には上田 夏生先生がその任を引き継がれ、令和5年9月30日に退任、令和5年10月1日に香川大学長に就任されています。平成14年6月19日付けで、講座再編に伴い、生体分子医学講座生化学に改称し、現在に至っています。45年に及ぶ伝統と歴史を誇る生化学講座を引き継ぎ、生化学分野が大きな変遷してきた現状を踏まえ、次世代に向けた革新的な生化学を目指して新たな挑戦に全力で挑む所存です。

私は、香川県出身で、香川県立高松高校在籍時にヒトゲノムプロジェクトの壮大さと果てしない可能性に魅了され、研究者を志しました。香川医科大学は、私の研究者としての原点であり、大学院博士課程で生化学・分子生物学の基礎を学び、大変光栄なことに西田賞を受賞する機会を頂きました。学位取得後、よりヒトに近い疾患研究を行いたいという希望から、2004年に東京大学医学系研究科糖尿病・代謝内科にうつり、門脇 孝前教授（現・虎の門病院 院長、日本医学会長）、山内 敏正教授のご指導のもと、約20年間、共に生命科学研究に邁進してきました。一貫して、糖尿病など代謝性疾患における病態の分子メカニズムの解明と創薬研究に一心に取り組んできました。

生活習慣病は、健康長寿の最大の障害要因です。糖尿病は、がんや認知症などのリスクが高まり、健康な人より約10年短命となります。私は、脂肪細胞から分泌されるホルモンであるアディポネクチンとその受容体AdipoRの作用低下が、これら疾患の原因となることを示しました。実際、AdipoRが欠損したマウスは糖尿病を発症し、そのシグナル伝達機構を明らかにし

ました (*Nature Medicine* 2007, *Nature* 2010)。逆にAdipoRを活性化することが生活習慣病の治療法となり得ると想定し、アカデミア発の化合物ライブラリー、情報科学を活用した独自のスクリーニング法（特許出願）を駆使し、AdipoRを活性化する低分子化合物を世界で初めて取得しました (*Nature* 2013)。興味深いことに、この化合物は、糖・脂質代謝を改善するだけでなく、寿命延長効果があり、AdipoRヒト化マウスでの解析も進んでいます (*Commun Biol.* 2021)。また、最近、田辺三菱製薬との共同研究により、AdipoRアゴニスト抗体を発表しました (*Sci Adv.* 2023)。さらに、AdipoRの立体構造を明らかにし、亜鉛イオンを配位した全く新しいタイプの7回膜貫通型受容体であることを報告しました (*Nature* 2015)。驚くべきことに、AdipoRは構造変化を起こし、それ自身が新しい基質特異性を持つ脂質の加水分解活性を有しており (*Commun Biol.* 2020)、さらに全く新しい受容体活性化メカニズムの解明に挑戦を続けています。また、AdipoRは、糖尿病・肥満症の病態を改善するだけでなく、肥満や老化で増加する脱毛症や肥満で増加する男性不妊症の病態を改善するなどAdipoRが多彩な作用を有することも分かってきました (*EMBO Mol Med.* 2021, *Sci Rep.* 2024)。

香川大学では、これまでの研究成果を基盤として、「Translational biochemistry」の実践を目指しています。教育・研究のあらゆる側面で橋渡しの役割を担いたいと考えています。基礎から臨床へ、既知から未知へ、分子から疾患へ繋がる探究心豊かな多角的視野を持った医師・研究者を育成するための橋渡しの生化学教育を推進し、学生には、実験の楽しさや生化学という学問の魅力をできる限り分かりやすく伝えたいと全力を尽くしています。着任して3ヶ月余りが経ちましたが、既に実験に興味を抱いた学生が研究室に通い始めており、その姿に大きな喜びを感じると共に、無限の潜在能力を秘めたその成長に大いに期待しています。研究面では、スタッフや学生と共に力を合わせ、世界的発見に挑戦したいと考えています。代謝性疾患を中心に、新しい予防法や治療法、薬物の開発、疾患の診断法の改善を通じて、患者さんに貢献し、健康長寿に

寄与することを目指したいと考えています。例えば、疾患の原因となる酵素や受容体などのタンパク質の機能を明らかにし、それをターゲットにした新薬の開発や疾患の進行を抑制するための方略の確立に挑んでいます。同時に新しい学問分野の創成に繋がるような挑戦的プロジェクトにも力を注ぎたいと考えています。さらに、AIやウェアラブルデバイスを活用した新しく画期的な運動バイオマーカーの開発にも取り組み、多角的な科学的アプローチにより、運動不足の問題を解決することを目指しています。現在、ムーンショット型研究開発事業（プロジェクトマネージャー：南学正臣教授（東京大学）、科研費の国際共同研究加速基金（国際先導研究）（研究代表者：染谷 隆夫教授（東京大学））をはじめとする競争的資金のプロジェクトを通じて推進しており、国内外の共同研究も展開しています。さらに、多くの臨床教室や工学系をはじめとする異分野との共同研究、産業界との実用化・社会実装に向けた産学連携にも力を注いでおり、さらに展開して参ります。

「Translational biochemistry」は、生化学の枠を超えて、あらゆる学問を繋げ、橋渡しをします。生化学を中心として、生物学から創薬研究へ、分子レベルから疾患の病態解明へ、広範な学問分野にわたる知識・

データ・技術革新を統合し、人材交流なども含めた橋渡しもしながら、既知の知識・データから未知の領域への挑戦を続けていきたいと考えております。最近のNature誌において、距離の近い共同研究こそがブレイクスルーを生むというデータが示されており、今後は、香川大学の先生方と新たな共同研究を推進し、際限ない挑戦を続けて参りたいと考えております。是非、諸先生のご指導、お力添え頂けましたら大変有り難く思います。

研究者になりたいという漠然としたささやかな夢から始まった私の研究者人生は、ピペットマンを握って30年近くにも及びますが、未だ道半ばです。Scienceの探求には終わりが無いところにこそ、その最大の魅力があります。この間、本当に数え切れない多くの先生方、先輩、後輩、そして仲間巡りに会い、共に全力で走り続け、多大なるご指導、ご支援、ご助力を頂きましたこと、関係する全ての皆様に心より感謝申し上げます。

これからの研究者としての人生の全てを捧げ、Scienceの魅力を本質的に理解できる医師・研究者の育成、香川大学の発展、香川県民の健康長寿の実現、さらには、scienceの未来に貢献して参りたいと心新たにしております。讃樹會の皆様におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻賜れますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

略歴

- 平成16年3月 香川医科大学大学院医学系研究科博士課程修了（博士（医学））
（現・香川大学）
- 平成16年4月 独立行政法人国立健康・栄養研究所 特別研究員
- 平成17年4月 財団法人ヒューマンサイエンス振興財団 リサーチレジデント
- 平成18年4月 独立行政法人日本学術振興会 特別研究員（PD）
- 平成21年4月 東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科 特任研究員
- 平成23年5月 東京大学大学院医学系研究科 特任助教
- 平成28年4月 東京大学大学院医学系研究科 特任講師
- 平成29年9月 東京大学大学院医学系研究科 先進代謝病態学講座 特任准教授（講座長）
- 令和5年4月 東京大学医学部附属病院22世紀医療センター副センター長（兼任）
- 令和6年4月 香川大学医学部生化学 教授
香川大学バイオインフォマティクス解析センター教授（併任）

教授就任のご挨拶

安心・安全な香川県の実現に向けて



香川大学医学部
人間社会環境医学講座法医学 教授

むら せ たけひこ
村瀬 壮彦

香川大学医学部同窓会讃樹會の皆様、はじめまして。2024年4月1日付けで香川大学医学部人間社会環境医学講座法医学の教授を拝命いたしました村瀬壮彦（むらせたけひこ）と申します。前教授である木下博之先生のご退官に伴いまして、若輩である私を温かく受け入れ、このようなご挨拶の機会を与えてくださったことに心より御礼申し上げます。香川は私にとって全くの新天地ではありますが、香川県と私の出身である長崎には調理の方向性は異なるものの強く愛されている麵料理、広大な海と風光明媚な島々、穏やかな県民性など共通点が多いように思われ、誠に勝手ながら強いシンパシーを感じており、大変過ごしやすい環境です。このような讃岐の地において精進できることは非常に恵まれていると存じます。

私は2012年に長崎大学を卒業し、長崎県内で2年間の初期研修を経た後、長崎大学大学院法医学分野において法医実務・研究活動・学生教育の3つを軸に構え、研鑽を積んでまいりました。まだまだ未熟な身ではありますが、長崎大学で培った経験を活かし、皆様の期待に応えることを目標としています。

法医解剖は社会の安寧・秩序を維持するために欠かすことができない業務です。とりわけ司法解剖はご遺体から事件性に繋がる所見を資料化し、適切な司法判断を導きます。加えて、近年では事件性の有無に関わらず、死因究明に対して社会的関心や要求が高まっていることがあり、法医解剖の重要性がこれまで以上に増しています。先代の諸先生方のご尽力もあって香川大学では法医実務を行うにあたって十分な設備、人材が揃っており、香川県警察といった捜査機関との良好な協力関係が築かれています。これらの基盤を引き継ぎ、活用することによって香川県における法医実務並びに死因究明体制をさらに発展させていきたいと考えております。また、全国的に災害が頻発する中、今後30年において南海トラフ巨大地震が発生する確率は70-80%に及ぶとされており、四国地方においても甚大な被害・死者数が想定されます。災害時の法医学の役割として重要なのは被災した御遺体の迅速な個人識別

及び死因診断となりますが、平時のうちから香川県警察や警察医・警察歯科医会といった関係諸機関との強固な連携体制を構築し、万が一の発生時には迅速に対応していきます。さらに、香川大学医学部及び附属病院としても、このような大災害への対策を拡充しておく必要があります。災害時における臨床業務及び地域貢献についての事業計画整備についても、積極的に貢献していきます。

一般的な医学領域と同様に、法医学においても研究活動は欠かすことができません。私は法医実務から得られた疑問を、基礎医学研究として解明し、その結果を法医実務にて活用するという流れを意識した活動を行ってまいりました。私の研究テーマの一つとして、損傷の受傷時期推定法の開発があります。法医実務において御遺体に損傷を認めた場合、その成傷機序や受傷時期、死因との関連等についての判断を行うことは極めて重要です。受傷時期とは即ち被害者の受傷から死亡までの時間を表すため、その正確な推定は被害者・被疑者の行動等を時間的に裏付ける情報として真相究明に非常に有用であり、その推定法の確立は法医実務及び司法判断に不可欠です。様々な受傷時期推定法の研究が行われていますが、私は損傷部における経時的なタンパク質の発現動態を明らかにし、受傷時期推定マーカーとなるタンパク質の発見・評価を行うことで客観的に受傷時期を推定し、司法の場へ適切な情報を提供することを目指し、研究活動を進めています。また、解剖検査は死因究明を行うにあたって最も信頼性のある方法ですが、科学の進歩した現代でさえ診断が困難である病態が存在し、例えば早期の急性心筋梗塞や超急性期脳梗塞といった疾患は見逃されることもあるのが現状です。このような病態に対して分子生物学的・分子病理学的アプローチによる研究を行い、法医実務への応用が可能な診断法の開発を計画しています。

死因究明推進基本法が制定され、死因究明の施行・推進は全ての医療者が負うべき責務となり、法医学領域だけでなく、臨床現場においてもこれまで以上に死因究明の施行が求められています。そのため、学生へ

の法医学教育がより一層重要視されており、単に法医学的知識を教授するだけではなく、救急現場を経由した実症例を提示し、死亡に至った機序の考察や模擬的な死因診断を繰り返し行うことで臨床的な法医学の面白さを伝え、「臨床医になる自分には関係ない」といった意識の改革を目指します。

最後となりましたが、香川大学での職務を通じ、これからの香川県全体の安心・安全を実現するために努力していく所存です。讃樹會の皆様方には御指導及びご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

略歴

平成16年3月 長崎県立大村高等学校 卒業
平成24年3月 長崎大学医学部医学科 卒業
平成24年4月 長崎大学病院（初期研修医）
平成25年4月 佐世保市立総合医療センター（初期研修医）
平成30年3月 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻（博士課程）修了
平成30年4月 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻 法医学分野 助教
平成30年10月 ミュンヘン大学 法医学研究所 客員研究員
令和元年10月 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻 法医学分野 助教
令和6年4月 香川大学医学部医学科 人間社会環境医学講座 法医学 教授

第18回讚樹會定期總會開催報告

開催日時：令和6年5月11日（土）

会場：講義棟講義室101

15：30～16：10 総会

16：30～17：00 記念講演会

講師：西山 成先生（8期生 香川大学医学部長）

演題：「香大医、生まれ変わるために」

18：00～ 懇親会（旬菜小蝶）

第18回讚樹會定期総会は、令和6年5月11日（土）15時半から、医学部再開発工事第一弾として3月に竣工したばかりの真新しい講義棟の講義室101で開催されました。

前年度同窓会長平川栄一郎先生（1期生）によって開会宣言が行われ、引き続き議長も務めて議事が進行しました。令和6年度・7年度会長選挙につきましては、多数の信任投票を経て新しく星川広史先生（平成2年卒第5期生）の会長就任が決定しました。理事選挙につきましては、多数の信任投票により、各卒年に1～2名ずつ計61名が令和6年度・7年度の2年間の理事として決まりました。

星川広史新会長による所信表明の後、報告事項として、同窓生教授就任の報告、令和4年度・5年度の事業報告、令和5年度決算並びに監査報告が行われ承認されました。

次に、平川前会長から医学部再開発記念特定基金寄附について報告がありました。近々開講50周年を迎える母校は、著しい老朽化と狭隘化に直面しており、これを機に医学部を再開発するプロジェクトを掲げる医学部への支援について、讚樹會では本年4月の理事会で1,000万円を寄附する決定をしたことが本日の総会で報告され参加者の賛同を得ました。

審議事項に移り、令和6年度予算案が審議され決定しました。また、名誉会員が推薦され承認されました。

平川前会長は、会長を交替するに当たり、顧問に就任いただくことが承認されました。

以上により、全ての議事の審議・承認が無事に終わりました。報告及び議事の詳しい内容につきましては、後述の総会議事録を参照ください。

記念講演会に移る前に、山田治来先生（平成2年卒）、市来智子先生（平成9年卒）のお二人に教授就任のご挨拶を頂戴し、参加者全員でお祝い申し上げました。

しばらくの休憩をはさみ、同教室において、記念講演会が開催され、令和5年10月に医学部長に就任され

た西山 成先生（8期生）を講師にお迎えし、「香大医、生まれ変わるために」の演題でご講演いただきました。会場は満員で、学生の中には立ち見や、会場外で聴講する姿もありました。

質疑応答では2年生の学生さんから、西山先生の掲げる3つのポリシー実現のための具体的なカリキュラムについて質問がありました。西山先生は、医学部学生としての6年間と卒後を通してシームレスに地域医療と繋がることで、3つのポリシーが育まれるチャンスとなるとの考えを話されました。

最後に、西山先生が顧問をしているウインドサーフィン部代表の小坂由人さん（3年）から花束贈呈がありました。

総会後の懇親会は、コロナも落ち着いた今年はようやく開催が可能となり、高松市内の「旬菜小蝶」で参加者14名と小規模ながら和やかに開催されました。



星川広史新会長



議長の平川栄一郎前会長



出口一志事業局長



講義棟101の総会参加者



河井信行選挙管理委員長



挨拶される市来智子先生（左）と山田治来先生（右）

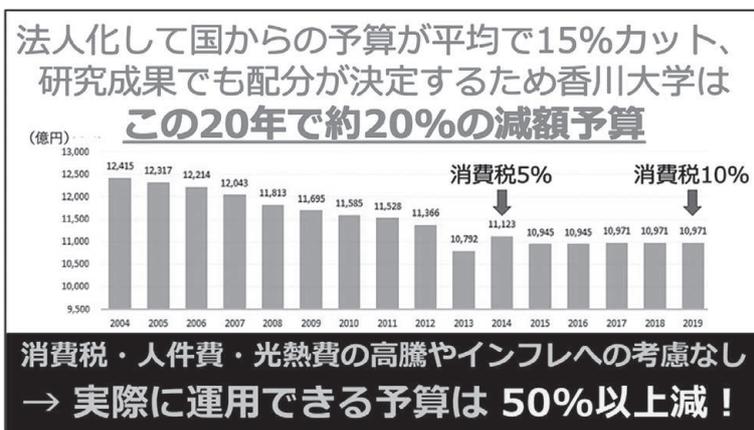
第18回讃樹會定期總會記念講演会

「香大医、生まれ変わるために」

講師 西山 成医学部長 (平成5年卒・8期生)

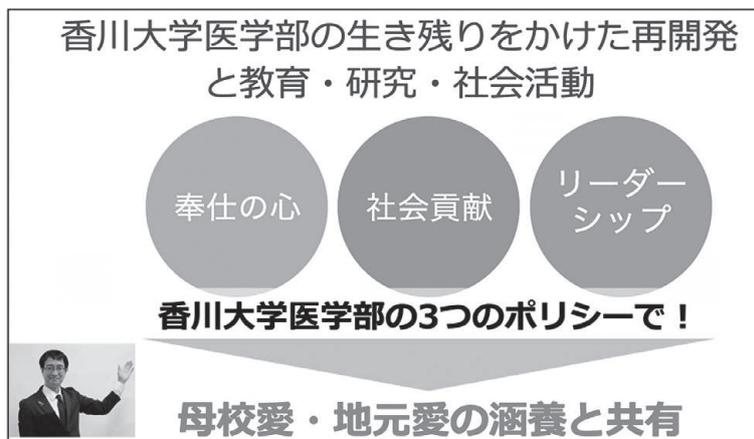
まずは讃樹會の皆様に対し、香川大学医学部を代表いたしまして、いつも学生たちに多大なるサポートをいただいておりますことを心よりお礼申し上げます。また、医学部長就任後から昨年末の讃樹會関東支部会を皮切りに、今年に入って2月に地元高松、7月には初めての開催となる中部支部会に参加させていただきました。これらに加え、新たに関西支部会も開催を企画していただいておりますとのこと、この場をお借りして感謝申し上げます。

さて、まずは同窓生の皆さまに香川大学医学部を取り巻く状況について説明申し上げたいと思います。香川大学医学部は香川医科大学として開講して45年経過しましたが、これからどうなるのかを考えますと、問題は山積しております。国からの予算はどんどん減っている一方で（下図）、子供のみならず高齢者の数も減る時代を迎えますが、逆に外国人の割合は増えていくような社会が想定されます。



一方、必要な医療知識は指数関数的に増えていく時代に対応するため、多くの医療行為がAIやアンドロイドに置き換えられることでしょう。また、より進化したコロナや巨大南海トラフ地震がいつ来てもおかしくありませんが、地球の温暖化はどんどん進んでいて、とんでもない状況になるかもしれません。あらゆることが想定される未来、すなわち今の学生たちが私くらいの年齢になる頃には、「もうあまり医師は要らない」といった時代が来るかもしれません。そのような時代を迎えるにあたって、香川大学医学部で学んだ学生には、どのような状況でも適応でき、いつの時代でも必要とされるスペシャルな医療人になってほしいと考えています。そして、そのためにはこの香川大学医学部を生き残らせることが必要であります。香川大学医学部を生き残らせるために学部長として何ができるのか、何をしなければいけないのかを日々悩み、そして出来ることは何でもやって行こうと心に決めました。

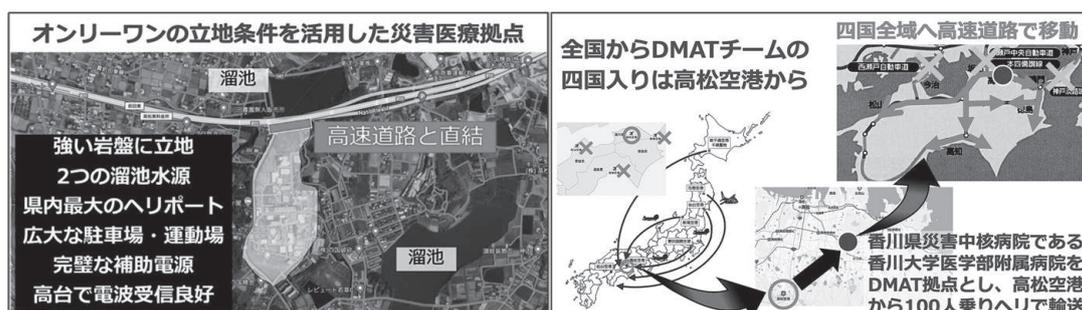
必要とされる未来医療人を教育していく上で、香川大学医学部の学生に心に焼き付けてほしいビジョンが3つあります。その3つは学生さんが医療人になった時に必ず必要だと私が信じていることです。一つ目は奉仕の心、二つ目は社会への貢献、そして三つめはリーダーシップです（下図）。



例えばゴミが落ちていて毎日拾うように心がけていると、周りの皆が拾うようになった。それもすごく立派なリーダーシップだと思います。この3つのビジョンを常に持っていれば、きっとどんな未来でも生き残っていける医療人になるのではないのでしょうか。そしてもう一つ重要なこととして、この3つを学生さんに身につけてもらうことによって、学生さんと我々教職員と一緒にこの香川大学医学部を愛し、香川県を愛し、日本を愛することに繋がり、それぞれの想いが地域への貢献に資するのではないかと考えております。

このような未来医療を教育していくため、昨年度から6年かけて香川大学医学部キャンパスの再開発事業が開始されています。香川大学創造工学部・大場教授のご尽力により、奉仕の心、社会への貢献、リーダーシップをビジョンとしてキャンパス全体をデザインしていただいております。しかし再開発においては、国からの資金では不足する約13億円ものお金を6年間に自力で集めなければいけません。幸い、多くの卒業生の皆様に寛大なサポートをいただいておりますとございますが、今後とも何卒ご尽力賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

一方で私は、この新しいキャンパスを教育のみならず、研究の拠点にしたいと考えております。デザイン志向の研究、あるいはリスクマネジメントや災害に対する研究、あるいは心や芸術に対する研究、そしてゲノムも含めた医療情報に対する研究などです。さらに、この新しいキャンパスを災害の医療拠点としたいと考えております。私は巨大南海トラフ地震を見据えて一つ気づいたことがあります。それは、香川大学医学部のキャンパスは岩盤の丘の上に設置され、建物はどれ一つ耐震補強されたことがないことです。また、高速道路に隣り合わせであるのみならず、運動場もエアポートとして使用可能です。高台にあり災害本部の県庁との通信も良好であることが昨年の訓練で確認されており、2つのため池が隣接しますので緊急時の生活用水には使用できると思います。このように、香川大学医学部は巨大南海トラフ地震の災害医療拠点として申し分のない地の利を持っているということに気づいたのです。私はこの地の利を生かした災害に対する対策は国民のために急務であると考え、災害医療拠点としての協議を開始しました。香川県、三木町、香川県医師会、香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構、消防署、自衛隊、四国電力などとも連携し、今後、対策を進めてまいります（下図）。



最後に同窓生の皆様方に、本年度から新たに始めますホームカミングデイについてお知らせ申し上げます。私は香川医科大学・香川大学医学部卒業生の皆様、あるいは学生諸君のご家族の方が、この香川大学医学部に帰ってきてくれる、そんな日を作りたいと思っています。初めてとなる今年の開催日は学祭中で連休中日の10月13日（日曜日）です。特に同窓生の皆様方におかれては、その日の夜に街中の居酒屋などで飲み会を企画しておりますので、是非とも集っていただければと思います。また、学祭中は皆様が所属していた部活、あるいは関係する学生さんが屋台を出していると思いますので、たくさん買ってあげてください。

以上、本日は香川大学医学部での活動についてお話し申し上げました。これまでの同窓生皆様のご協力に重ねて感謝申し上げますとともに、引き続きお力をお貸しいただけますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



定期総会議事録 第18回定期総会 令和6年5月11日(土)15:30~16:20

1. 開会宣言 (前年度会長 平川栄一郎氏 (昭和61年卒))

参加者18名及び委任状552名の計570名の参加となり、正会員(3785名)の10分の1以上を満たし総会が成立する旨の宣言が行われた。

2. 議長選出

立候補がなく、満場一致で前会長の平川栄一郎氏(昭和61年卒)が議長に選出された。

3. 選挙開票結果報告

会長選挙は、星川広史氏(平成2年卒)への信任投票となり、4月15日までに届いた郵便投票646票のうち、信任636票、不信任0票、無効10票という結果により、星川広史氏が会長に就任した。

理事選挙は608票の投票のうち、信任599票、不信任1票、無効8票という結果となった。会員の有効投票数の過半数の信任票であることが確認され、令和6年度・7年度理事が決定した。

4. 会長所信表明 新しく就任した星川広史会長による所信表明が行われた。

5. 令和4年度・5年度事業報告

安田真之事務局長(平成9年卒)から令和4・5年度の同窓生の教授就任祝賀報告の後、過去2年間の事業活動が報告され、承認された。

【学術局】

●研究助成金事業

令和4年度(第18回)

研究助成金 坂本篤志(平成16年卒)

研究奨励金 大浦杏子(平成22年卒)

令和5年度(第19回)

研究助成金 中村信嗣(平成16年卒)

研究助成金 大浦杏子(平成22年卒)

研究奨励金 阪口正洋(平成23年卒)

●国外留学助成金事業

令和5年度 木田潤一郎(平成23年卒)

R4年度の助成決定後、コロナ禍の明けたR5年度に留学

令和5年度 阪野太郎(平成27年卒)

●講演会事業

令和4年度 第12回市民公開講座 高松市11月

令和5年度 第13回市民公開講座 高松市11月

●学会助成金事業

令和4年度採択

▶第7回腎移植内科研究会学術集会(香川大学腎

臓内科)

令和5年度採択

▶日本高血圧学会 高血圧フォーラム2023(香川大学 薬理学)

▶第16回日本Acute Care Surgery学会学術集会(令和6年開催予定)(香川大学 消化器外科学)

【教育支援局】

●研修医支援 (卒後臨床研修センター)

在学生対象研修プログラム説明会、個人面談、カフェ面談、オープン医局など各種勧誘事業、指導医養成講習会の支援。附属病院研修医歓迎会、研修医室設置のコーヒーメーカーやウォーターサーバーへの補充等、本院研修医への支援。卒業アルバム購入。

●専門医研修支援 (医師キャリア支援センター)

JMECC講習会、外科講習会の費用支援。

●学生援助

①大学間国際交流協定締結校への学生の短期留学に対する助成：R4年度3名、R5年度11名 2年間で計14名

②競争的資金事業

R4年度2件(香川大学学生ACLS勉強会、香川国際協力NGO U-dawn)

R5年度3件(IFMSAK-ESC(留学部門)、香川大学学生ACLS勉強会、香川国際協力NGO U-dawn)

●国際交流協力事業(国内向け国際交流事業への支援)

R5年度 冬季国際医学セミナーにブルネイ・ダルサラーム大学医学生が来学し、交流会への費用支援

【広報局】

●会報発刊 2年間で計4号(64号~67号)を発刊

●讚樹會公式ホームページ運営管理

●讚樹會公式Facebookページ運営管理

【事業局】

●医師賠償責任保険取り扱い業務：令和6年4月現在、加入者総数約1100名強。事務手数料の収入がある。

●後援協賛事業

医学部祭、謝恩会への寄附。医学部祭への支援はR5年度より2倍の10万円に増額。更にR5年度のみ、医学部祭緊急追加協力費をつける。

卒業時に記念品(ネームペン)贈呈。「Outstanding Teacher of the Year」表彰のサポート。

●総会・支部・同期会助成

開催案内の事務的協力と懇親会事業援助金を助成。

R4年度：関東支部会第21回(WEB開催)

R5年度：関東支部会第22回（対面式の通常開催）
医学部主催の懇親会にあたり会費補助。

令和5年度：「香川大学医学部・附属病院のこれから」についての意見交換会・懇親会

●地域連携協力事業

R4年度：子宮頸がん予防イベント後援

R5年度：子宮頸がん予防イベント後援

「香川大学医学部・附属病院のこれから」
についての意見交換会・懇親会 案内協力

●新型コロナウイルス対策支援事業

令和4年度 医学部祭コロナ対策支援

令和5年度 医学部祭コロナ対策支援

【看護科同窓会「木蓮会」支援事業】

委託契約を結び、通常同窓会業務の事務的補助を行っており、木蓮会事務局として事務局内の一部スペースを提供している。契約は毎年、自動更新している、委託手数料をいただいている。

◆その他の会務報告

①香川大学校友会

香川大学校友会理事に各学部同窓会の会長が就任。理事会に平川会長が理事として参加。（WEB開催）

②総会・理事会・執行部会

総会：R4年5月14日（第17回定期総会 WEB）

理事会：R4年度 8/1（WEB）、12/19（WEB）

R5年度 5/22（WEB）、8/1（WEB）、
12/4（WEB）

執行部会の開催：

R4年度 4/25（WEB）、8/1（WEB）、
12/19（WEB）

R5年度 5/22（WEB）、8/1（WEB）、
12/4（WEB）

③事務局

会員のデータ管理、公式HP管理、公式Facebook管理、会費の徴収、医師賠償責任保険代行業務、会計管理、その他同窓会事業運営に関する業務全般

6. 令和5年度決算報告および監査報告

令和5年度単年度の決算報告が出口一志事業局長（昭和61年卒）から行われ、引き続き西田智子監査委員長（昭和63年卒）の代理として安田事務局長から監査報告が行われ、承認された。

7. 医学部再開発記念特定基金寄附報告

平川前会長から医学部再開発記念特定基金寄附について報告があった。近々開講50周年を迎える母校は、著しい老朽化と狭隘化に直面しており、これを機に医学部を再開発するプロジェクトを掲げる医学部への支援について、讃樹會では本年4月の理事会で1,000万

円を寄附することを決定したことが報告され参加者の賛同を得た。

8. 令和6年度予算案承認の件

出口一志事業局長より令和6年度予算案の説明があり、承認された。

9. 名誉会員推薦の件

寛 善行先生（香川大学元学長）、今井田克己先生（香川大学元副学長）、田宮 隆先生（香川大学元副学長）、岡田宏基先生（医学教育学講座元教授）、中村隆範先生（分子細胞機能学元教授）、白神豪太郎先生（麻醉学講座元教授）が名誉会員に推薦され、承認された。

10. その他

11. 閉会宣言

用意された議事の審議が全て終了し、追加の議案がないことを確認し、議長より閉会が宣言された。

◆教授就任祝賀の報告◆

- ・R3年4月1日付で加瀬政彦先生（平成4年卒7期生）千葉県立保健医療大学 健康科学部 栄養学科
- ・R4年4月1日付で山田治来先生（平成2年卒5期生）岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科
- ・R4年10月1日付で川越いづみ先生（平成12年卒15期生）順天堂大学医学部 麻醉科学・ペインクリニック講座
- ・R5年1月1日付で中井浩三先生（平成11年卒14期生）高知大学医学部 皮膚科学講座
- ・R5年4月1日付で徳留 健先生（平成8年卒11期生）横浜市立大学医学部 薬理学
- ・R5年10月1日付で枝園忠彦先生（平成11年卒14期生）岡山大学医学部 乳腺・内分泌外科
- ・R5年10月1日付で井上茂亮先生（平成12年卒15期生）和歌山県立医科大学 救急・集中治療医学講座
- ・R5年10月1日付で門田球一先生（平成15年卒18期生）香川大学医学部 分子腫瘍病理学
- ・R6年1月1日付で河口浩介先生（平成18年卒21期生）三重大学医学部附属病院 乳腺外科
- ・R6年4月1日付で市来智子先生（平成9年卒12期生）香川大学医学部 総合診療学
- ・R6年4月1日付で小原英幹先生（平成9年卒12期生）香川大学医学部 消化器・神経内科学

令和6年5月現在75名が教授に就任されています。

令和5年度会計報告

令和5年度収支計算報告書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

事業活動収支の部

単位：円

| 科目 | 予算 A) | 決算 B) | 差額 B) - A) |
|------------------|------------|------------|---------------|
| 1. 事業活動収入 | | | |
| ①会費・入会金収入 | 8,000,000 | 7,486,000 | -514,000 |
| ②寄付金・広告収入 | 750,000 | 969,670 | 219,670 |
| ③委託手数料収入 | 3,200,000 | 3,321,978 | 121,978 |
| ④利息 | 0 | 306 | 306 |
| 事業活動収入計 | 11,950,000 | 11,777,954 | -172,046 |
| 2. 事業活動支出 | | | A) - B) |
| ①事業費支出 | | | |
| 会報制作費 | 950,000 | 989,010 | -39,010 |
| 後援協賛事業費 | 550,000 | 559,535 | -9,535 |
| 支部・同期会費 | 200,000 | 196,541 | 3,459 |
| 学術助成金事業費 | 1,650,000 | 2,617,450 | -967,450 |
| 国外留学助成金事業費 | 750,000 | 500,000 | 250,000 |
| 学生援助費 | 800,000 | 490,000 | 310,000 |
| 国際交流協力費 | 200,000 | 216,435 | -16,435 |
| 地域連携推進事業費 | 100,000 | 111,740 | -11,740 |
| 研修医協力費 | 700,000 | 392,796 | 307,204 |
| 講演会費 | 500,000 | 523,521 | -23,521 |
| 学会助成金事業費 | 100,000 | 200,000 | -100,000 |
| 新型コロナウイルス対策支援事業費 | 90,000 | 90,000 | 0 |
| 緊急追加協力費 | 60,000 | 60,000 | 0 |
| 事業費支出小計 | 6,650,000 | 6,947,028 | -297,028 |
| ②管理費支出 | | | |
| 事務人件費 | 2,200,000 | 2,190,200 | 9,800 |
| 事務局・各委員会運営費 | 1,280,300 | 1,414,505 | -134,205 |
| ホームページ管理費 | 55,000 | 55,000 | 0 |
| 通信費 | 1,350,000 | 1,374,957 | -24,957 |
| 慶弔費 | 250,000 | 191,170 | 58,830 |
| 雑費 | 100,000 | 87,264 | 12,736 |
| 予備費 | 100,000 | - | 19,700 |
| | △80,300 | | |
| 管理費支出小計 | 5,255,000 | 5,313,096 | -58,096 |
| 事業活動支出計 | 11,905,000 | 12,260,124 | -355,124 |
| 当期事業活動収支差額 | 45,000 | -482,170 | |
| 前期繰越収支差額 | 51,206,320 | 51,206,320 | |
| 次期繰越収支差額 | 51,251,320 | 50,724,150 | |

(注) 予備費の使用

予備費の△80,300円は事務局・各委員会運営費に充当使用し、当該科目の予算額に含めて表示している。

以上

貸借対照表

令和6年3月31日現在

単位：円

| 資産の部 | 金額 | 負債及び 正味財産の部 | 金額 |
|------------|--------------|----------------|--------------|
| 資産 | | 負債 | |
| 1. 流動資産 | (50,724,150) | 1. 固定負債 | (16,000,000) |
| 現金・預金 | 50,724,150 | 同窓会館建設引当金 | 16,000,000 |
| 2. 固定資産 | (16,000,000) | | |
| 同窓会館建設引当預金 | 16,000,000 | 正味財産 | 50,724,150 |
| 合計 | 66,724,150 | 合計 | 66,724,150 |

財産目録

令和6年3月31日

単位：円

| 資産の部 | | 金額 |
|------------|--------------|------------|
| 1. 流動資産 | | |
| (1) 現金・預金 | | |
| イ) 手許現金 | | 34,896 |
| ロ) 普通預金 | 百十四銀行三木支店 | 2,644,503 |
| ハ) 郵便貯金 | 郵便振替貯金事務センター | 36,765,888 |
| ニ) 定期預金 | 香川銀行本店営業部 | 10,196,632 |
| | 百十四銀行医大前出張所 | 1,082,231 |
| | 流動資産合計 | 50,724,150 |
| 2. 固定資産 | | |
| (1) 特定目的資産 | 同窓会館建設引当預金 | 16,000,000 |
| | 固定資産合計 | 16,000,000 |
| | 資産合計 | 66,724,150 |

固定資産の内訳

(令和6年3月31日現在)

| 資産の名称 | 数量 | 取得年月 | 取得価額 | 償却方法 | 耐用年数 | 償却率 | 当期償却額 | 未償却残高 |
|-------|----|------|------|------|------|-----|-------|-------|
| 該当なし | | | | | | | | |
| | | | - | | | | - | - |

監査報告書

令和6年4月19日

香川大学医学部医学科同窓会
讃樹會 会長 平川 栄一郎 殿

公認会計士

岩村 浩二

私は、香川大学医学部医学科同窓会讃樹會の令和5年4月1日から令和6年3月31日に至る令和5年度決算報告書の監査を実施した結果、収支状況及び財政状態を適正に表示されているものと認めます。

以上

監査報告書

令和6年5月7日

香川大学医学部医学科同窓会
讃樹會 会長 平川 栄一郎 殿

監査委員長

近田 智子

讃樹會監査委員会は、令和5年4月1日から令和6年3月31日に至る令和5年度決算報告書の監査を実施した結果、適正妥当に表示されているものと認めます。

以上

令和6年度予算

令和6年度予算

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

事業活動収支の部

単位：円

| 科 目 | 6年度予算 | 5年度予算 | 5年度決算 |
|----------------------|-------------------|--------------------|-------------------|
| 1. 事業活動収入 | | | |
| ①会費・入会金収入 | 8,000,000 | 8,000,000 | 7,486,000 |
| ②寄付金・広告収入 | 850,000 | 750,000 | 969,670 |
| ③委託手数料収入 | 3,450,000 | 3,200,000 | 3,321,978 |
| ④雑収入 | | 0 | 306 |
| 事業活動収入計 | 12,300,000 | 11,950,000 | 11,777,954 |
| 2. 事業活動支出 | | | |
| ① 事業費支出 | | | |
| 会報制作費 | 950,000 | 950,000 | 989,010 |
| 後援協賛事業費 | 550,000 | 550,000 | 559,535 |
| 支部・同期会費 | 200,000 | 200,000 | 196,541 |
| 学術助成金事業費 | 1,650,000 | 1,650,000 | 2,617,450 |
| 国外留学助成金事業費 | 1,000,000 | 750,000 | 500,000 |
| 学生援助費 | 800,000 | 800,000 | 490,000 |
| 国際交流協力費 | 200,000 | 200,000 | 216,435 |
| 地域連携推進事業費 | 100,000 | 100,000 | 111,740 |
| 研修医協力費 | 700,000 | 700,000 | 392,796 |
| 総会費 | 300,000 | 0 | 0 |
| 講演会費 | 400,000 | 500,000 | 523,521 |
| 学会助成金事業費 | 200,000 | 100,000 | 200,000 |
| 新型コロナウイルス対策支援事業費 | 0 | 90,000 | 90,000 |
| 緊急追加協力費 | 0 | 60,000 | 60,000 |
| 事業費支出小計 | 7,050,000 | 6,650,000 | 6,947,028 |
| ②管理費支出 | | | |
| 事務人件費 | 2,200,000 | 2,200,000 | 2,190,200 |
| 事務局・各委員会運営費 | 1,200,000 | 1,280,300 | 1,414,505 |
| ホームページ管理費 | 55,000 | 55,000 | 55,000 |
| 通信費 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1,374,957 |
| 慶弔費 | 250,000 | 250,000 | 191,170 |
| 雑費 | 90,000 | 100,000 | 87,264 |
| 予備費 | 100,000 | 100,000 △80,300 | - |
| 管理費支出小計 | 5,245,000 | 5,255,000 | 5,313,096 |
| 事業活動支出計 (①+②) | 12,295,000 | 11,905,000 | 12,260,124 |
| 当期事業活動収支差額 | 5,000 | 45,000 | -482,170 |
| 前期繰越収支差額 | 50,724,150 | 51,206,320 | 51,206,320 |
| 次期繰越収支差額 | 50,729,150 | 51,251,320 | 50,724,150 |

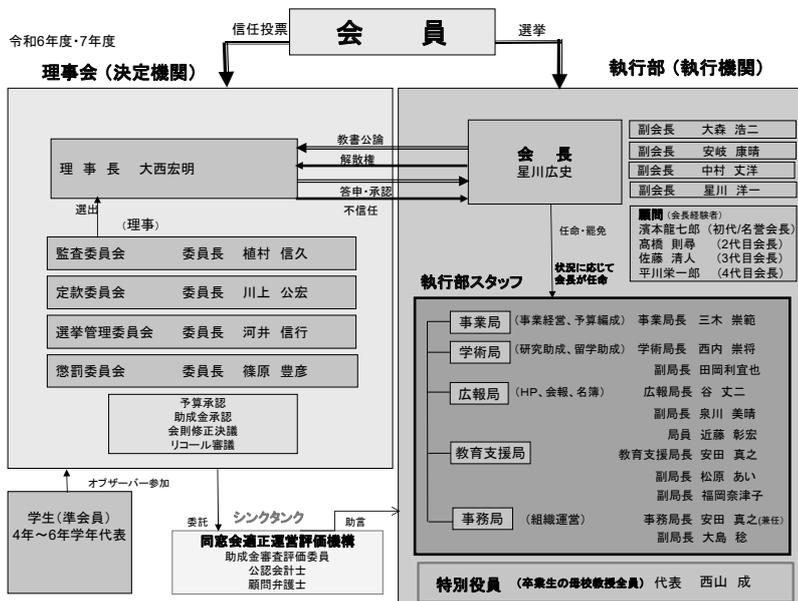
令和6年度・7年度理事一覧／組織図

理事一覧

| | 卒年 | 氏名 | 所 属 |
|----|------|-------|-------------------------|
| 1 | S61年 | 植村 信久 | キナシ大林病院 内科 |
| 2 | | 大西 宏明 | 高松赤十字病院 第一血液内科 |
| 3 | S62年 | 河井 信行 | かがわ総合リハビリテーション病院 |
| 4 | | 川上 公宏 | キナシ大林病院 内科 |
| 5 | S63年 | 田中 宏和 | 香川大学 周産期学婦人科学 |
| 6 | | 吉村 裕 | 吉村整形外科醫院 |
| 7 | H元年 | 合田真由美 | 滝宮総合病院 放射線診断科 |
| 8 | | 篠原 豊彦 | しのはら医院 |
| 9 | H2年 | 羽場 礼次 | 香川大学 病理診断科・病理部 |
| 10 | | 吉田 智子 | さくらづか吉田クリニック |
| 11 | H3年 | 高木雄一郎 | KKR高松病院 心臓血液病センター 循環器内科 |
| 12 | H4年 | 佐用 義孝 | 高松紺屋町クリニック |
| 13 | | 山口 真弘 | 小豆島中央病院 内科 |
| 14 | H5年 | 岩瀬 孝志 | 香川大学 小児科学 |
| 15 | | 川崎浩二郎 | 広瀬病院 整形外科 |
| 16 | H6年 | 加地 良雄 | キナシ大林病院 手外科診療センター |
| 17 | | 河北 賢哉 | 香川大学 救命救急センター |
| 18 | H7年 | 井町 仁美 | 香川大学 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学 |
| 19 | | 高尾 努 | たかお整形外科医院 |
| 20 | H8年 | 野間 貴久 | 香川大学 循環器・腎臓・脳卒中内科学 |
| 21 | | 村田 晶子 | 白神眼科医院 |
| 22 | H9年 | 花岡有為子 | 香川大学 周産期科女性診療科 |
| 23 | H10年 | 石川かおり | 香川大学 総合診療科 |
| 24 | | 岡内 正信 | 香川大学 脳神経外科 |
| 25 | H11年 | 小林 三善 | さんぜんクリニック |
| 26 | H12年 | 三崎 伯幸 | 香川大学 呼吸器外科 |
| 27 | H13年 | 西庄 佐恵 | 香川大学 小児科学 |
| 28 | H14年 | 小西 行彦 | 香川大学 小児科学 |
| 29 | H15年 | 玉井 求宜 | 香川大学 形成外科・美容外科 |
| 30 | | 松浦奈都美 | 香川大学 呼吸器外科 |

| | 卒年 | 氏名 | 所 属 |
|----|------|-------|----------------------|
| 31 | H16年 | 小谷野耕佑 | 香川大学 総合周産期母子医療センター |
| 32 | | 中村 信嗣 | 香川大学 小児科学 |
| 33 | H17年 | 今井 秀記 | 香川大学 精神神経医学 |
| 34 | H18年 | 須藤 広誠 | 香川大学 消化器外科 |
| 35 | | 村上あきつ | 香川大学 がんセンター |
| 36 | H19年 | 山口幸之助 | 香川大学 整形外科 |
| 37 | H20年 | 中野 裕貴 | 香川大学 眼科 |
| 38 | | 細川洋一郎 | 武岡皮膚科クリニック |
| 39 | H21年 | 石橋 洋一 | 香川県立白鳥病院 整形外科 |
| 40 | H22年 | 阪部 雅章 | 滝宮総合病院 外科 |
| 41 | H23年 | 井上 卓哉 | 香川大学 呼吸器内科 |
| 42 | | 千田 鉄平 | 香川大学 救命救急センター |
| 43 | H24年 | 大西 啓右 | 香川大学 腎臓内科 |
| 44 | H25年 | 内田 俊平 | 香川大学 輸血部 |
| 45 | H26年 | 小塚 和博 | 香川大学 消化器内科 |
| 46 | H27年 | 和泉 高宏 | 岡病院 内科 |
| 47 | | 磯崎 竜一 | 香川大学 整形外科 |
| 48 | H28年 | 秋光純一郎 | 香川大学 眼科 |
| 49 | H29年 | 戸田 雄太 | 香川大学 循環器内科 |
| 50 | H30年 | 石田 智也 | 香川大学 血液内科 |
| 51 | H31年 | 今上 雅史 | 香川労災病院 放射線診断科 |
| 52 | | 品部 佑太 | 香川大学 小児科 |
| 53 | R2年 | 宮本貴和子 | 香川県立中央病院 小児科 |
| 54 | R3年 | 岡野 滉司 | 香川大学 麻酔・ペインクリニック科 |
| 55 | | 飛梅 里佳 | 四国こどもとおとなの医療センター 小児科 |
| 56 | R4年 | 梶 明日香 | 香川大学 泌尿器・副腎・腎移植外科 |
| 57 | | 四元 拓宏 | 坂出市立病院 外科 |
| 58 | R5年 | 東 和輝 | 香川大学 卒後臨床研修センター |
| 59 | 院H8 | 小川 尊明 | おがわ口腔外科クリニック |

組織図



特別役員 (※母校出身教授)

| 代表 | 氏名 | 所属 | 卒年 |
|-------|-------------------|----|---------|
| 西山 成 | 薬理学 | | H5年 |
| 西山 佳宏 | 放射線医学講座 | | H2年 |
| 横井 英人 | 医療情報学 | | H8年 |
| 村尾 孝児 | 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学 | | H2年 |
| 日下 隆 | 小児科学 | | H3年 |
| 三木 崇範 | 神経機能形態学 | | H3年 |
| 星川 広史 | 耳鼻咽喉科学講座 | | H2年 |
| 三宅 実 | 歯科口腔外科学 | | H3年院修了 |
| 杉元 幹史 | 泌尿器科学 | | S63年 |
| 金西 賢治 | 周産期学婦人科学 | | H5年 |
| 小坂 信二 | 薬剤学 | | H25年院修了 |
| 三宅 啓介 | 脳神経外科学 | | H5年 |
| 横平 政直 | 医学教育学 | | H11年 |
| 岡野 圭一 | 消化器外科学 | | H4年 |
| 門田 球一 | 分子腫瘍病理学 | | H15年 |
| 市来 智子 | 総合診療学 | | H9年 |
| 小原 英幹 | 消化器・神経内科学 | | H9年 |
| 岩部 美紀 | 生化学 | | H16年院修了 |

ニュースの窓

「香川大学医学部・附属病院のこれから」についての意見交換会・懇親会 令和6年2月29日

医学部・附属病院の現在と今後について情報共有する場として、「香川大学医学部・附属病院のこれから」についての意見交換会・懇親会が、医学部主催で開催され、県内を中心に同窓の先生方に参加を呼びかけました。上田学長、笥前学長を始め、名誉教授の先生方、県内の同窓生など、会場の高松国際ホテル讃岐の間には約60名の参加がありました。西山医学部長、星川副学部長から、令和5年にスタートし6年間に及ぶ医学部再開発の構想についての現状と展望が詳細に説明され、実現に向けて寄附による支援と協力の重要性への理解が深まる良い機会となりました。



医学科第39期生卒業式／学位授与式／謝恩会

令和6年3月24日



医学部講義棟竣工記念式典

令和6年3月29日



医学部講義棟の改修工事完了を記念して、竣工記念式典及び内覧会が開催されました。西山医学部長、上田学長の挨拶の後、講義棟の内装デザインに協力された創造工学部の大場教授から内装デザインの説明があり、その後、関係者によるテープカットが行われました。

講義棟は医学部開講時から存在した、学生のための学習の棟であり、45年ぶりに初めての全面的改修工事となりました。透明ガラスが多様された開放的なラウンジや、用途に合わせて広さが変えられる共用室など、学生の意見も多く取り込んだデザインです。

附属病院研修医

令和6年度 新研修医をよろしくお願いたします!

令和6年4月1日

今春、医科17名・歯科4名の新研修医を本院に迎えました。

新研修医達は、不安と緊張感を感じながらも、各病棟・診療科での研修をスタートし毎日励んでおります。

皆様方には研修医育成へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。(卒後臨床研修センター)



令和6年度採用新研修医集合写真

2024年3月28日オリエンテーション開始式にて撮影 ▶

香川大学入学式

令和6年4月3日

学部入学式が午前10時から本学講堂にて行われ、上田学長から「勉学とともに、あるいはそれ以上に重要なことは、大学生活を通じて人間的に成長し、大学卒業後に、社会人として自立して、生きていけるだけの「人間力」を身に付けることです。そのためには、勉学に積極的に取り組むのは勿論ですが、サークル活動を始めとする学内の課外活動や、学外での地域連携活動、ボランティア活動など、様々なことに挑戦してみてください。」との告辞がありました。また、先輩から新入生へ向けて「今だからできること、ここ香川大学だからできることをたくさん考え、経験し、自分を高めることができるような素敵な大学生活を送ってほしいと思います。」との祝辞がありました。新入生の内訳は、教育学部169名、法学部170名、経済学部253名、医学部194名(内医学科109)、創造工学部342名、農学部157名、編入学54名の計1,339名です。



▲笑顔で医学部キャンパスに立つ新入生

香川県臨床研修病院合同説明会開催

令和6年6月3日

香川県臨床研修病院の合同説明会が、6月3日、香川県内基幹型病院が参加し初めて開催されました。参加は、香川大学医学部附属病院、香川県立中央病院、高松赤十字病院、高松市みんなの病院、高松平和病院、回生病院、香川労災病院、四国こどもとおとなの医療センター、三豊総合病院の9つの病院で、医学部の5年生、6年生を対象として、医学部食堂レストランオリブで行われました。



各病院のブースで、熱心に説明を聞く学生のみなさん ▶

正木 勉教授退官記念祝賀会に出席して

名誉会長 濱本龍七郎（昭和61年卒・1期生）

令和6年3月16日にJRホテルクレメント高松で、正木 勉教授退官記念祝賀会が、281名の先生方が参集され開催されました。

総合司会の西日本放送アナウンサー鴨居真理子氏の開会宣言が行われ、会が始まりました。

まず、開会の挨拶として香川大学医学部消化器・神経内科同門会会長 伊藤 哲史先生、続いて、香川大学名誉教授 西岡 幹夫先生、山梨県立病院機構理事長 東京大学名誉教授 小俣 政男先生、香川大学医学部神経機能形態学教授 三木 崇範先生、香川県医師会会長 久米川 啓先生、香川大学医学部小児科学教授 日下 隆先生、香川大学名誉教授 徳田 雅明先生、兵庫県立淡路医療センター院長 鈴木 康之先生、香川大学医学部循環器・腎臓・脳卒中内科学前教授 河野 雅和先生からお祝いのお言葉をいただきました。

次に、正木先生より祝辞と乾杯の発声をお願いされており、私、濱本龍七郎（讃樹會名誉会長）がまずスピーチを行いました。「正木先生は平成20年より今日



正木 勉教授

までの16年間の教授時代に、論文数680、インパクトファクター5834点、新入医局員87名、学位取得者60名、関連病院62の実績を積み上げられ、これらを見ても、臨床、研究、教育におい

て、香川医大歴代、最高の教室を作ったといっても過言ではないと思われ



濱本龍七郎
名誉会長

先生の教授就任パーティーにおいて、私はスピーチで「奇跡の男」と称しました。なぜなら、医大卒業後18年で教授になられた事です。そしてこの度の退官パーティーにおいては、「運の強い男」と称します。なぜなら、これだけの巨大化した教室を作った事は、人を惹きつけ、運の強い教授の元に運の強い人たちが集まり、大きな組織となった。そして、次の教授に自身の部下である小原英幹先生を指名し、教授を引き継いだ。香川医大では、母校出身教授が次期教授に母校出身の弟子を教授にした事は初の事であり、卒業生皆の誇りであります。小原先生は、正木イズムを継承し、そして御自身の色を出して、より良い教室を作っていただきたいと思ひます。」

引き続き、乾杯の発声では「正木先生の今後の御発展、小原先生率いる消化器神経内科の今後の御発展、また、本日御参集の皆様の御健勝御多幸を祈念しまして「乾杯」と申し上げました。

余興を挟み談笑があり、その後、12名の先生方の1分間スピーチが行われ、花束贈呈、プレゼント贈呈、正木教授の感謝の挨拶と進み、最後に谷丈二先生（医局長）の閉会の言葉で、祝賀会が滞りなく終宴いたしました。



理事会議事録

令和6年度第1回理事会 令和6年4月23日(火) 20:00~21:10 医学部管理棟4階第1会議室

当日参加 11名及び委任状31名による計42名の参加となり、全理事66名の過半数(34名)以上により理事会が成立した。

1. 令和5年度決算承認

資料として、収支計算報告書、貸借対照表、財産目録、固定資産台帳、監査報告書が提示され、収支計算報告書に沿って出口事業局長から令和5年度決算の収支が報告された。会費収入の減少に加え、昨年度は研究助成金の受賞者が2件となったため全体の収支は赤字となったが、それ以外の項目に関しては多少の過不足がある程度で問題はないとされ、参加の全理事により、令和5年度決算が承認された。

2. 令和6年度予算案審議・決定

令和6年度の予算案が出口事業局長から説明された。事業活動収入については、おおむね昨年と同じとする。昨年は会費収入が若干少なかったため今年度は増えるよう努力する。事業活動支出については、おおむね昨年来を踏襲する。その中で国外留学助成金は、コロナ明けの留学増加に伴い申請が増えることが予想される。また総会が開催されるため、総会費を計上している。学会助成金は6月末を申請締切とする。新型コロナウイルス対策支援事業費、緊急対策事業費は今回は計上しない。管理費支出も昨年とほぼ同じように計上し、最終的には収入と支出がほぼ同じとなる見込みであることが説明された。

星川洋一先生から、地域連携推進事業費の子宮頸がん予防イベントへの後援について説明があり、意義のある支援であることが確認された。

以上の令和6年度予算案について、参加の全理事により承認された。

3. 令和6年度第1回国外留学助成金審査・決定

令和6年度第1回国外留学助成金の申請は、城下郊平先生(平成25年卒)、大庭聖也先生(平成27年)の2件であり、西内学術局長から1次審査を経て問題ないことが報告された。これを受けて理事会による2次審査が行われ、1件の限度額である250,000円満額が申請者2名にそれぞれ交付されることが決定した。

4. 医学部開講50周年記念特定基金への支援金拠出について

西山医学部長から、医学部再開発収支のシミュレーションを資料として説明が行われた。「再開発に14億7600万円が6年間で必要となる。さらに建築費、資材費の高騰により、当初予算よりも支出が増加する見込みである。工期は第1期~第6期にわたるが、本年(2024年)第II期は新棟の建設が開始され、トータルで4億6000万円の支払いが必要となる。これらの支出を賄うため、医学部開講50周年基金、研究経費からの拠出を始め、文部科学省、香川県からの補助金など外

部資金からもできるだけ費用を捻出するため様々に努力しているところである。しかしそれでも不足する1億1500万円は寄附を募りたい。4月に入り本日までの22日間に、600万円の寄附をいただいている。これが来月以降も続くと期待して年間7000万円を見込むが、それでもまだ足りない状況である。

再開発には建物の建設のみならず、例えば解剖台についても、空気換気機能のついた新しい解剖台の購入で7000万円が必要であり、そういった設備や機器の費用も含まれている。

このような状況であり、同窓会の先生方に協力いただき寄附金を募りたく、讃樹會にご寄附をお願いさせていただいた次第です。」

これに対し、平川会長から以下の説明があった。「三木前医学部長、西山現医学部長から、個人の厚意による寄附とは別に、讃樹會として寄附をお願いされ、再開発についての説明も受けている」「開学以来40年が経過し、母校も古くなり、今回は本当に大きなイノベーションであるため、讃樹會としても協力したいと思う。現在、同窓会館を敷地内に建設する目的で毎年積立ててきた基金が1600万円ある。執行部では、この積立のうちの1000万円を再開発へ寄附し、残りの600万円は今後、緊急に支援が必要となる場合のために留保するという意見である。

今年から図書館前の中庭に建設が始まる新棟は、1階に讃樹會事務局が移転し、2階には学生や卒業生がくつろぎ交流できる多目的ホールが作られる予定である。これは、本来の同窓会館建設のための積立が生かせる機会であると思われる。大学との話し合いが必要だが、例えばそのホールに讃樹會の名前を付けることになるかもしれない。」

「さらに、讃樹會としての寄附以上に、卒業生がそれぞれ寄附をしていただくのが肝心だと考えている。どうしたら卒業生の行動につながるかを、大学と一緒に理事会でも考えていただきたいと思います。」

讃樹會として再開発に1000万円の寄附を行うことについて、理事から賛同の拍手があり決定した。総会でのこの件についての議事の扱いは、大西理事長と平川会長の間で決めることとなった。

5. その他

◆河井信行先生から2点の提案があった。

①定年制について 1、2、3期生に理事就任をお願いしても、大学とはずっと関わっていないなどの理由で断られることが増えている。ここ2~3年で定年となる年代となっており、我々がいることで若い先生

方が発言しにくくなることも懸念される。ある一定の年齢で定年制を導入することをここ1、2年の間に考えていくのはどうか。

②母校に残る卒業生を増やすことについて 例えば国外留学助成金は香川大学で育て研究し留学する人を優先するといったような方法を考えて、県外への流出を防ぎ、より多くの卒業生が大学に残るように対策し、今後、同窓会として卒業生のためにできることを考えていきたい。

これに対し、大西理事長から、定年制は役職定年も含めて今後議論していきたいということで、執行部会で検討することとなった。

国外留学助成金制度については、既に20年以上前の制度のままであり、例えば金額の半分は香川大学枠にしてもいいかもしれないと、本制度の立案者である西山先生から意見があった。

◆ホームカミングディ開催について西山医学部長から周知があった。

今年の医学祭開催時に、卒業生が集まる機会としてホームカミングディを開催する。学生時代の部活を訪問したり、学生の活動を紹介するなど、企画をいろいろ考えている。また新棟完成後は、卒業生、在校生の集いの場に、卒業生には1年に一回は香川大学医学部に帰ってきていただくよう、讃樹會とも連携しながら、卒業生の方をお迎えしたいと考えている。

◆50周年基金について意見が交わされた。

「もっと宣伝してもいいと思う。」「青写真が見えない。困窮しているのが伝わってこない。1億足りないのと10億足りないのでは困窮さが全く違う。実際にどのくらい足りなくて、どのくらい大学として頑張っているのかということをもう一度説明した方がいい気がする。」「2月の意見交換会で、実際のスライドで大学の傷んでいる箇所を見た。本日のシミュレーションから、このくらい足りないということが分かった。そのように額がはっきり見えている方が寄附しやすい。」「寄附の資料や振込用紙をすぐにどこかに無くしてしまうので、どんどん配布した方がいい。無くしてもすぐに次がくるくらいに。」「各学年の理事からも同級生や知り合いに寄附についての話をし、理事会としても協力していきたい。」

◆地域医療実習について星川広史先生から協力の呼びかけがあった。

学生の医療実習の受け入れ先として、県内の病院に協力をお願いしている。複雑なことを指導するのではなく、診察の見学や、血圧を測るなど、そういう機会を持つことが学生にとって非常に大事である。県内の卒業生の先生方に、学生たちの教育の受け入れ先という形で協力いただきたい。

最後に大西理事長から、理事会としては香川大学医学部卒業生を今後も応援していきたいとの言葉があった。

令和6年度第2回理事会 令和6年8月6日(火) 19:30~20:00 WEB開催

当日参加 16名及び委任状17名による計33名の参加となり、全理事61名の過半数(31名)以上により理事会が成立した。

1. 新執行部役員等について(報告)

星川広史会長(平成2年卒・5期生)から、新年度の執行部役員について報告があった。

2. 理事長並びに常任委員会委員長の選出について

事前に新年度理事に行ったアンケートで推薦が一番多かった大西宏明先生(昭和61年卒・1期生)が今年度も引き続き理事長に就任することが決定した。次に、各委員長は、監査委員会(植村信久先生)、選挙管理委員会(河井信行先生)、懲罰委員会(篠原豊彦先生)、定款委員会(川上公宏先生)をお願いすることとなった。

3. 令和6年度研究助成金及び研究奨励金の審査・決定

西内崇将学術局長により選考過程についての説明があった。研究助成金3件、研究奨励金3件の申請があり、学外評価委員13名の採点を集計した審査結果が資料とされた。その結果、評価委員による最高点を獲得した研究助成金部門の藤田浩二先生(H27年院)と研究奨励金部門の横田崇之先生(H28年)が、執行部案のとおり決定した。

4. 学会助成金審査

2025年開催予定の1件への助成が執行部案のとおり

決定した。助成額は要項に則る。

第37回 腎と脂質研究会(2025年3月/高松)
助成額6万円。

5. 学生の競争的資金審査

以下の4件へ各2万円の助成が執行部案のとおり決定した。

- ①学生ACLS勉強会 ②香川国際協力NGO U-dawn
- ③IFMSAK-ESC(留学部門)
- ④原 彩香(国際学会参加発表)

6. その他

①卒業生アンケートへの協力について 医学教育学横平教授から、「医学教育カリキュラム」「薬害特別講義」の2件について、2015年3月以降の卒業生全員を対象にアンケートするに当たり、讃樹會のネットワークを活用し、メールアドレスの判明者に対してメール配信の依頼があり、承認された。

②讃樹會名誉会員就任について 名誉会員に就任いただいている板野俊文先生の推薦があり、香川医科大学微生物学初代教授林英生先生の讃樹會名誉会員就任が承認された。

令和6年度 讃樹會研究助成金／研究奨励金 選考結果

速報

| 部 門 | 受賞者 | 研究題目 |
|-------|---|---------------------------------------|
| 研究助成金 | 藤田 浩二 (大学院平成27年修了) 香川大学医学部 消化器・神経内科学 | 肝細胞癌の抗がん剤耐性獲得機構における タンパク質FTCDの機能解析 |
| 研究奨励金 | 横田 崇之 (平成28年卒) 香川大学医学部附属病院 小児科 | 水素ガス吸入療法による早産児慢性肺疾患の 新規治療法の開発 |

◆選考過程のご報告◆

第18回(令和6年度)讃樹會研究助成者及び研究奨励者について選考を行いました。研究助成金部門3件、研究奨励金部門3件の全6件の申請があり、学外評価委員13名によって評価を受けました。

評価に当たって、学外評価委員が正当に評価できないと判断した申請書に対しては、採点しなくてもよいこととしております。採点無しというケースを可能な限り少なくするべく、提出された申請内容に鑑み、専門に近い学外評価委員5名を選定し、COIに抵触しないことを委員本人に確認の上、具体的には学外評価委員一人につき、2～3件の採点をお願いしました。

採点は6つの項目(1. 研究課題の学術的重要性・妥当性、2. 研究計画・方法の妥当性、3. 研究課題の独創性・革新性、4. 研究課題の波及性、5. 研究の実現性、6. 研究の学術的優先度)に対して、それぞれ5段階評価(5点:極めて高い、4点:高い、3点:やや高い、2点:やや低い、1点:低い)を行って頂き、合計点を平均しました。

以上の厳正なる審査の結果、獲得点数は、研究助成金部門では藤田浩二先生の「肝細胞癌の抗がん剤耐性獲得機構におけるタンパク質FTCDの機能解析」(4.20点/5点満点)が第一位となりました。研究奨励金部門では横田崇之先生の「水素ガス吸入療法による早産児慢性肺疾患の新規治療法の開発」(3.70点/5点満点)が第一位となりました。

また、今年度の全体平均点は3.69点/5点満点でした。

学外評価を基に8月6日開催の令和6年度第2回理事会において、藤田浩二先生に金壹百万円、横田崇之先生に金五十万円を授与することを正式に決定しました。

両先生には、心よりお喜び申し上げるとともに、研究の益々のご発展をお祈り申し上げます。

学外評価委員の先生方におかれましては、大変お忙しい中、無償でご協力頂きましたことを誌上からではございますが、心から感謝申し上げます。

讃樹會研究助成 学外評価委員

臨床科

| | 氏 名 | |
|---|------|-----------------------------|
| 1 | 伊藤 進 | 香川大学 名誉教授 |
| 2 | 今井裕一 | 愛知医科大学 名誉教授/多治見市市民病院 病院長 |
| 3 | 千田彰一 | 香川大学 名誉教授 |
| 4 | 原 量宏 | 香川大学名誉教授/医学部医療情報学 客員研究員 |
| 5 | 水野博司 | 順天堂大学医学部形成外科学講座 教授 |
| 6 | 吉栖正生 | 広島大学大学院医系科学研究科心臓血管生理医学 名誉教授 |

基礎科

| | | |
|---|------|---|
| 1 | 梶谷文彦 | 川崎医科大学名誉教授/岡山大学特命教授/北海道大学客員教授 |
| 2 | 小林良二 | 香川大学 名誉教授 |
| 3 | 阪本晴彦 | 香川大学 名誉教授 |
| 4 | 田畑泰彦 | 京都大学大学院医学研究科 形成外科学 特任教授 「細胞バイオテクノロジー」田畑グループ 京都大学名誉教授 |
| 5 | 徳光 浩 | 岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学学域 バイオ・創薬部門 細胞機能設計学 教授 |
| 6 | 西堀正洋 | 岡山大学学術研究院医歯薬学域 創薬研究推進室 特命・特任教授 |
| 7 | 森田啓之 | 東海学院大学健康福祉学部管理栄養学科 教授 |

(敬称略)

国外留学助成金 受賞の言葉

令和6年度第1回国外留学助成金

城下 郊平（平成25年卒） 国立国際医療研究センター研究所 生体恒常性プロジェクト

留学先機関：San Raffaele Telethon Institute for Gene Therapy (SR-TiGET)
サンラファエレ・テレソン遺伝子療法研究所
Gene Transfer Technology and New Gene Therapy Strategies Unit
遺伝子導入技術・新規遺伝子治療戦略ユニット

留学期間：2024年9月～2026年8月

研究課題：「安全かつ高精度なヒト造血幹細胞の遺伝子編集技術に基づく
先天性免疫異常症の治療研究」



【謝辞】

この度は国外留学助成金に採択頂き、香川大学医学部医学科同窓会「讃樹會」の皆様にご心より御礼申し上げます。私は国立国際医療研究センター研究所の田久保圭誉先生に御指導頂き、造血幹細胞遺伝子編集・培養法の研究で学位を取得しました。2024年9月からイタリア国・ミラノのSan Raffaele Telethon Institute for Gene Therapy (SR-TiGET) に留学予定です。本研究所はSan Raffaele大学とTelethon財団が共催する遺伝子細胞療法に特化した世界でも稀な研究所で、先天性免疫不全症に対する遺伝子細胞療法製剤を世界で初めて導出した先駆的な施設です。私はレンチウイルスベクターの発見者で、SR-TiGETの研究所長でもありますLuigi Naldini教授の研究室で、遺伝子編集技術を用いた先天性免疫不全症に対するヒト造血幹細胞の遺伝子細胞療法の開発に取り組む予定です。本助成のご推薦を頂きました川崎市立川崎病院血液内科部長の定平健先生、国家公務員共済連合会組合立川病院血液内科の小橋澄子先生、ならびに讃樹會の皆様にご場をお借りして厚く御礼申し上げます。

大庭 聖也（平成27年卒） 東京医科歯科大学 膠原病リウマチ内科

留学先機関：Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical school

留学期間：2024年4月～2026年3月

研究課題：腎レジデント細胞に注目したループス腎炎の病態解明と
薬物送達を活用した精密治療の開発



【謝辞】

この度は国外留学助成を拝受しましたこと、讃樹會の皆様にご心より感謝申し上げます。私は、大学院生で東京医科歯科大学および国立感染症研究所で主にSARS-COV-2に関する免疫学的な研究を行った後、2024年4月よりハーバード大学のBeth Israel Deaconess Medical Center, Division of rheumatologyに所属しております。全身性エリテマトーデス（SLE）の分野で著名なGoerge C Tsokos先生の下でループス腎炎の病態解明と薬物送達を用いた精密治療の研究に従事しています。古典的な免疫学的研究に重きをおいた研究室ですが、Omics解析などの各種expertがharvard内に複数おり、非常に恵まれた環境で研究を行うことができっております。臨床に結実する研究をしたいという思いから研究の道に進みましたが、非常にexcitingな本研究テーマから新たな知見を見出し、医学への貢献ができるように精進します。本留学においては多くの方々のご支援を頂きました。この場を借りて重ねて御礼申し上げます。

特 集

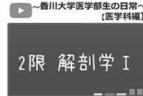
学生が主導する新たな医学部広報活動



Student Life

 医学生
の一日
  看護学生
の一日
  臨床心理学生
の一日

New article

| | | | | |
|--|---|--|---|---|
|  2024.06.03 第34回西オケ委員長に突撃! 本日は、西オケの委員長を務めた塚原さんへのインタビューを皆さんにお伝え... |  2024.07.23 県外出身の医大生に聞いてみた!～中部ver.～ 今回は、同じく県外出身の医学科生として、愛知県名古屋市出身の先輩をご紹... |  2024.07.23 香川県出身者に聞いてみた! 今回は医学科3年の大山さんにインタビューしてみました!香川県出身、丸亀高... |  2024.06.03 【医学科編】～香川大医学部生の日常～をYoutubeに公開しました! 全3部作の第一弾!!今回は医学科生の1日をご紹介します!現役医学部生... |  2024.06.03 フルネイ留学ってなに? 今日は2024年2月に5週間香川大医学部からフルネイへ留学に行ってきた、... |
|--|---|--|---|---|

今年度より、香川大学医学部の学生が主体となっていく広報活動が開始いたしました。この活動は医学部生が自らの手で情報を発信し、受験生やその保護者の方々、また地域住民の方々に向けて香川大学医学部の魅力や学生の生活、最新の取り組みなどをお伝えすることを目的としています。

西山医学部長より医学部長特命担当学生として任命された6名で構成される我々は、香川大学医学部学生広報部として活動しています。6名全員が香川大学医学部祭の実行委員経験者であり、実行委員として活動する中で培ったホームページの作成能力や企画力、動画制作能力などを活かして広報活動に取り組んでいます。

学生広報部のホームページは、香川大学医学部・医学系研究科のホームページにあるバナーをクリックしてアクセスできるほか、以下のURLからもアクセス可能となっております。月に2回の頻度で更新しますので、ぜひお時間のある時にご覧ください。

○「香川大学医学部学生広報部ホームページ」



URL :

<https://www.med.kagawa-u.ac.jp/~student-led/index.html>

※内容に関しまして注意を払ってはおりますが、お気付きの点がございましたらホームページ内の問い合わせ窓口からご連絡いただけますと幸いです。

2024年7月現在、医学部生へのインタビュー記事が主なコンテンツとなっております。県内外出身の学生に香川全体の魅力を含めた香川大学医学部での学生生活の魅力や、留学・大会・演奏会などで成果を残した学生の取り組みを発信することで、今まで以上に香川大学医学部の外にいらっしゃる方々にもっと我々について知っていただきたいと思っております。

また記事以外にもYouTubeチャンネルを開設し、

動画にて医学部生の1日をご紹介します。今後も動画コンテンツをアップロードしていきますので、ぜひチャンネル登録をお願いいたします。

○YouTubeチャンネル名「香川大学医学部学生広報部」



URL : <https://youtube.com/@user-gf8fw1zy2u?si=rjjQHgegsX4ZO2ae>



【医学科編】現役医学部生の1日をご紹介します！～香川大学医学部生の日常～

今後はさらなるインタビュー記事や動画コンテンツの充実、加えてInstagramなどのSNSを活用した情報発信も計画しています。記事に関しましては、現在は学生へのインタビューを中心に行っておりますが、香

川大学医学部の先生や香川大学医学部をご卒業の先輩方にもぜひお願いしたいと考えております。お願いに伺う際には、ぜひインタビューにご協力いただけますと幸いです。

以前より医学部の活動は広報されておりましたが、この度、学生が中心に香川大学医学部の魅力を発信する広報活動を行っていくこととなりました。我々の強みは、学生であるが故の視点を持ち、学生生活のリアルな情報を発信できる点にあります。これからも香川大学医学部学生広報部として多くの方々に香川大学医学部の魅力を伝えていきます。どうぞご期待ください。



関連病院だより

— 卒業生の勤務先病院 —

全国版

岡山済生会総合病院（岡山県）

～ 駅近の総合病院～

岡山済生会総合病院 小児科診療部長 喜多村 哲朗（昭和62年卒・2期生）

同窓会讃樹會広報部からのご依頼により病院を代表して私、喜多村が書かせていただきます。本来なら3期生の今谷潤也先生（当院整形外科診療部長）に書いていただくのがよろしいかと思われますが、僭越ながら新参者の私のほうが一期上でしたので私に白羽の矢が立ったと思われます。

私が済生会に勤務し始めたのは5年前です。それまでは岡山大学の関連施設として香川県立中央病院、その後米国へ留学、帰国後は日本鋼管福山病院で約20年間勤務しておりました。実家の病院が市内にあるため岡山へ戻る希望を医局に出しておりましたので、やっと戻ってこられた感じでした。現在の私はアレルギー専門医・指導医として小児アレルギー疾患を中心に診療を継続しております。最近特に力を入れているのは食物アレルギーです。食物負荷試験からの食事指導を行い、早期に除去食を解除していこうと日々奮闘しております。

岡山済生会総合病院は平成28年より総合病院（国体町）の入院部門と外来センター病院（伊福町）の外来部門とにそれぞれ分野を分けております。また、平成30年には外来センター病院に地域包括ケア病棟（80床）が開設され、現在の総合病院としては病床数473床（一般：409 小児：13 緩和ケア：25 ICU：10 HCU：16床）という規模で地域医療を担っています。

岡山市内には岡山医療センター、岡山赤十字病院、岡山市民病院、川崎医療センターなど総合病院が数多く存在しておりますが、その中でも岡山済生会病院の一番のメリットは岡山駅に最も近いことです。

岡山市の中心部に位置しており、市内の年配の方々からは絶大な信頼がありますし、交通の便がとて良いので「何かあれば済生会へ」と多くの方が言われま



線路側から見た岡山済生会総合病院



岡山済生会外来センター病院と健診棟

す。さらに済生会は母体が恩賜財団であり、済生会としてのトップは秋篠宮さまです。そのため恵まれない方々への手厚い看護・医療を提供する精神が脈々と受け継がれている印象を受けます。

各診療科には岡山大学から派遣されたトップクラスの医師が多く在籍しており、特に消化器外科、肝臓内科、腎臓内科、整形外科、眼科など、症例数は大学病院を凌駕しています。

また研修病院としても人気があり、毎年13-15人のNewFaceが来られています。

我が母校香川大学出身者としては、大変活躍されておられる今谷潤也先生（整形外科）、丸山啓輔先生（腎臓内科）をはじめとする約15名の医師が在籍中です。（資料を送付いただきましたのでわかりました）当院にこんなに多く香川大学出身者がおられ活躍されていることを知って正直驚いております。

最後になりますが、香川大学の益々のご発展をお祈



跨線橋からみた夜の済生会総合病院

りいたします。

今後とも岡山済生会総合病院をよろしく願い申し上げます。

ふじもり内科・消化器内科クリニック（香川県）

院長 藤森 崇行（平成16年卒・19期生）

クリニック開業を振り返って

令和元年10月に高松市多肥下町にクリニックを開業してからを振り返ります。

まず、開業準備はとても忙しく、とても楽しい時期でした。もともと建築にも興味があったので設計の作業も楽しかったですし、いろいろな他業種の方と接する機会ができたので少し世界が広がった気がしました。また、銀行からの借金とはいえ、今まで扱ったことのない金額のお金を扱うこともあり、自分が少しリッチになったような思い違いをしていました。

開業してしばらくは、患者さんも少なく、寂しい日々でした。そんな中、突然のコロナ禍に襲われました。コロナに感染した患者さんの対応、保健所への報告、予防接種の段取りと、こんなはずじゃなかったと思いながら、日々業務に追われていたことを思い出します。その一方で、クリニックに来院される患者さんが増えないんじゃないかと心配まくりました。

コロナが徐々に落ちついたところで、日々の診療で気づいたことは、「機能的胃腸障害」の患者さんの多さでした。坂出聖マルチン病院や大学病院で、胆嚢を中心に修行させていただいた身としては、今まで教えていただいたことを発揮できず、日々もどかしい思いを持っていました。しかも、元来あまり外来が好きでもなかったことに加えて、毎日毎日、「機能的ディスぺシア」とか「過敏性腸症候群」と唱え続けることや、EGDやCSをしても圧倒的に問題ない方が多いことに、悶々とした日もありました。ただ、今ではそれがかかりつけ医としての役目ですし、異常を見つければ速やかに高次医療機関へ紹介することも大事と、やりがいを感じております。

開業するまでは、正直、開業医の先生方は、入院や処置が必要になれば紹介でいいなとも思ってしまっただけでもありました。しかし、開業してからは、たくさんの方の患者さんの病歴、状態、性格、背景を把握しつつ、必要な時には適格な判断が要求される開業医の役目も素晴らしいものだと感じております。



クリニック外観

最後に、私が今、なんとかクリニックを運営できているのは、今までお世話になった諸先輩方のおかげだと、本当に感謝しております。若輩者ではありますが、開業医として精一杯努力してまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

支部会・懇親会

第1回讃樹會中部支部会開催報告 2024/7/6

はじめての中部支部会 讃岐の丘に思いを馳せ、大いに盛り上がる

志水英明 (平成6年卒・9期生)

第1回讃樹會中部支部会

2024/7/6 (土) 18:00 名古屋
マリオットアソシアホテル



2024年7月6日名古屋マリオットアソシアホテルにて第1回讃樹會中部支部会が開催されました。中部地区では多数同窓の先生がご活躍されていますが、これまで開催がなく他支部会の開催報告を拝読するたびに羨ましく思っておりましたが、西山成医学部長のお声かけもあり今回はじめての開催となりました。

開催当日の昼に東海道新幹線静岡～掛川駅間で停電が発生し、新幹線運転見合わせのトラブルがありましたが3時間ほどで解消し、遅れて参加される先生も数

名いましたが無事開始となりました。西山成教授、副医学部長星川広史教授も新幹線が数時間停止している中ご参加いただきました。

30名の同窓生の先生が中部地区から参加され大盛況な会となりました。開催にあたり私(志水英明 H6年卒)から今回の中部支部会の開催について西山医学部長からのお声かけをきっかけに、中部地区で活躍されている幹事の先生、福原政作先生(H7卒)、内藤宗和先生(H14年卒)、淵野真広先生(H16年卒)、近藤康宏先生(H25年卒)、中畷晃一郎先生(H25年卒)に

協力を得て開催にいたったこと、多くの先生にご支援への感謝をのべさせていただきました。

西山医学部長より香川大学医学部の現状と課題そして未来構想・医学部開講50周年記念特定基金・四国における香川大学医学部の災害拠点としての役割など、我々同窓生へのメッセージを頂きました。

星川同窓会会長より医学部の再開発“DRIVE (Design thinking, Resilience, Informatics, Venture & Evolution) to the future”のお話がありました。また印象的であったのは香川大学医学部の早朝駐車場に止まっている2台の写真でした。これは毎朝、西山先生と星川先生が誰よりも早く出勤され、日々香川大学医

学部・病院の事に尽力されているとのことでした。我々も同窓会の一員としてできる限りのことをしたいと強く思いました。

中村恭介先生に香川大学医学部への熱い思いと共に乾杯のご挨拶をいただき支部会がはじまりました。

各先生からの近況報告をいただき現在の仕事、趣味、香川愛・母校愛自慢など大いに盛り上がりました。

各テーブルで年齢の近い同窓生で同世代の香川の思い出や仕事の話などで盛り上がりました。最後は幹事の一人である福原先生（H7年卒）により同窓会への感謝と今後の協力を参加者と確認し会を終了しました。



西山 成先生



星川広史先生



中村恭介先生

各テーブルの話題

第一テーブル

卒業後30年以上の同窓生のテーブルでした。主賓の星川先生や西山先生を囲んで香川での青春時代の思い出で大いに盛り上がりました。学生時代から多くの伝説を持つ名古屋でご開業され大活躍の中村先生、親子二代にわたり香川大学医学部で学ばれ最近御開業された稲垣先生、関東支部会にも参加し年数回香川を訪れ香川愛あふれる村松先生、学生時代からユーモアと温かみのある完山先生、愛知県医師会でご活躍の高橋先生、中部地区で著名な先生方にお目にかかれてとてもうれしく思いました。(H6年卒 志水英明)

星川広史 (H2年卒)、中村恭介 (H2年卒)、稲垣弘進 (H3年卒)、村松明子 (H4年卒)、完山泰章 (H4年卒)、高橋昌久 (H4年卒)、西山 成 (H5年卒)、志水英明 (H6年卒)



第二テーブル

島村隆浩先生 (H6年卒) から野垣岳志先生 (H13年卒) ままで一緒になりました。着席してまず挨拶したところ「えーっと、君は何年卒だったかな? ○○と同期だね!」「いや自分が先輩のはずなんすけど後輩でもあり…」「?」興味深いことに着席者の多くが留年組であることが判明。いきなり「母校がどんだけ大好きで何年在校したか自慢」大会が始まり、近況報告の前から大笑いの盛り上がりを見せました。(H7年卒 福原政作)

島村隆浩 (H6年卒)、福原政作 (H7年卒)、清水 真 (H10年卒)、依馬弘忠 (H12年卒)、松友将純 (H12年卒 欠席)、大島真央 (H12年卒)、野垣岳志 (H13年卒)



第三テーブル

谷口進先生、杉山健一先生をはじめとするH14年卒と坂本篤志先生ら16年卒の中堅どころのテーブル。起業10年未満の開業医が多く、苦労話がつきませんでした。田中淳一郎先生（H14年卒）はご趣味のカートレースの話で飛ばされていました。この世代のスターで現役教授の内藤宗和先生（H14年卒）もご一緒でした。個人的には、同級生で香川出身の田中毅先生と大分出身の私が中部支部で再開したこと、感慨深かったです。（H16年卒 瀧野真広）

内藤宗和（H14年卒）、谷口 進（H14年卒）、杉山健一（H14年卒）、田中淳一郎（H14年卒）、中原辰夫（H14年卒）、瀧野真広（H16年卒）、坂本篤志（H16年卒）、田中 毅（H16年卒）



第四テーブル

杉山豊先生（H17年卒）から杉本拓也先生（H28年卒）までと会場で一番若いメンバーでしたが、総合病院の部長であったり、（私も含め）開業して院長であったりとそれぞれの分野でご活躍されていました。世代を超えて知れ渡る学内の有名人の話、同窓生が起こした騒動！？、サッカー部は飲み会が激しかった話など、共通の話題も多く、同窓会ならではの懐かしい話で盛り上がりました。（H25年卒 近藤康宏）

杉山 豊（H17年卒）、田島基史（H18年卒）、榊原類（H19年卒）、水谷吉宏（H22年卒）、近藤康宏（H25年卒）、中寫晃一朗（H25年卒）、大久保友人（H26年卒）、杉本拓也（H28年卒）



謝辞

柚山さんをはじめとする香川大学医学部医学科同窓会 讃樹會事務局のご協力ありがとうございました。

中部支部会開催にあたりご寄付を頂き感謝いたします。

| | | | | |
|----------|----------|----------|----------|----------|
| 坂本 篤志 先生 | 村松 明子 先生 | 完山 泰章 先生 | 高橋 昌久 先生 | 杉山 健一 先生 |
| 田中淳一郎 先生 | 松友 将純 先生 | 中原 辰夫 先生 | 稲垣 弘進 先生 | 清水 真 先生 |
| 中村 恭介 先生 | 島村 隆浩 先生 | 福原 政作 先生 | 大久保友人 先生 | 依馬 弘忠 先生 |
| 中寫晃一朗 先生 | 杉山 豊 先生 | | | |

第23回 讃樹會 関東支部会

<日時>

2024年11月16日(土)

18時-20時

ドレスコード なし

立食+飲み放題(出入自由)

<会費>

現役医学科生は無料!

5,000円 (卒後10年以内)

10,000円 (卒後20年以内)

15,000円 (卒後21年以上)

今回のコンセプトは

来たらこたえがみつかります!

です

懐かし話が新たな縁を作る!

実は凄い 香大医ネットワーク!

日々の環境で悩んだりお困りのことはないでしょうか?

同窓生ネットワークを構築し、活路を見出しませんか?

身近な距離に勤務している同窓生と知り合いになれる貴重な機会です

臨床や経営でのノウハウを相談したい

同窓生にバイトに来て欲しい

香大医つながりでバイトが欲しい

母校の思い出を共有できる仲間が欲しい

研修先・就職先を探している

学位の相談がしたい

専門医取得に悩んでいる

転職・転科したい

などなど

幹事一同、誠心誠意準備中です

皆様のご参加をお待ちしております

全国各地どこからでも

参加大歓迎です!

参加登録受付中!!

最終締切10月31日

こちらから登録ください↓ ↓

会場近辺で2次会の開催も予定

しております

2次会から参加でもOKです!

問合わせ先: 讃樹會事務局

TEL:087-840-2291

mddousou@kagawa-u.ac.jp



学生短期留学報告

University of California Merced
4年 長崎みなみ

2024/1/31~3/14

研究テーマ：CBD2020, CBD2021studyマウスの血漿、
肝臓と腎臓におけるGLP-1に関する研究
(参考文献)

Pseudocannabinoid H4CBD improves glucose response during advanced metabolic syndrome in OLETF rats independent of increase in insulin signaling protein (<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37899754/>)

1 学習状況について

最初はコミュニケーションに少し苦勞した。しかし、理解できるまで躊躇わずに何度も聞き返し積極的な姿勢を示すことが信頼関係の構築において重要だと感じた。米国では英語を母国語としない人も多く住んでおり、特に私が在籍していた研究室はヒスパニック系や中国系の学生が多かった。そのためか、私が伝えたいことを理解しようという姿勢を示してくれる人が多く、言語力が不十分な私にとってすばらしい環境だった。

現地では2回、ラボチームの前で発表する機会をいただいた。一つはjournal club、もう一つは実験データの発表を行った。Journal clubは私にとって初めての経験で、どのような論文を選ぶべきか、プレゼンの仕方、発表後の質問に対する回答の準備など、1から全てラボの仲間らに教えてもらった。発表の練習にも付き合ってくれ、本当に良い仲間に出会えたと思う。質問は私がどれだけ内容を理解しているかを問うものが多く、勉強のアウトプットがテストを受ける事しか出来ていなかった私にとって、これらの発表の機会はとても貴重な経験になった。

2 生活状況について

現地到着直後は、目や耳に入るもの全てが日本と全く異なるものでとても新鮮であった。住まいを提供してくれたDr. Rudy Ortizは様々なイベントに私を連れ



ヨセミテ国立公園



お世話になったRudy Ortiz教授とBrenda夫人

て行ってくれ、旅行では味わえない体験を多く経験できた。留学中特に深い交流を持ったうちの一人が中国出身の学生であった。彼女は高校からアメリカに一人で移住し、現在学部4年生であるが、誰に対しても社会的ですぐに良好な関係を築けるような人物で、研究に対して強い意志を持っている。彼女の尊敬する点の一つに、オンオフの切り替えがある。平日は授業の課題や研究に熱心に勤しみ、私に実験のアドバイスや研究に関する情報の共有を積極的に行うが、休日はいつも外出に誘ってくれ、さまざまな友人を連れてスポーツや旅行を共に楽しんだ。アドバイスは常に的確で、疑問や不確かな点を見つけると私が理解できるまで繰り返し説明してくれた。彼女らと共に学べたことは今回の留学において最も大きな成果の一つだと感じる。

3 後輩へのアドバイス

留学に至るまでに必要な書類作業は計画的に行うべきだと思う。米国の研究機関等に留学する場合、受け入れ先機関にDS-2019を発行してもらい、J-1ビザを取得する必要がある。その他にも奨学金の申請など、前もって自分で調べる必要のある物事がいくつかある



マーセドのダウンタウン

ため、時間に余裕を持って準備を進めるべきだと思う。

4 その他

留学で得た知識や経験を基に、今後も研究テーマに関する探究を続けたい。留学先の仲間と共同で研究を続けることができたらと強く思う。また、留学で得た経験を活かし、大学卒業後は国内外で仕事ができるよう尽力したい。今回の留学にご支援いただいた西山成先生、私の家族と友人、薬理学研究室職員の方々、学務課の職員の方々、そしてDr. Rudy Ortiz研究室の皆様へ感謝の意を示したい。短い留学期間ではあったが、この経験は私の人生にとって重要な学びの機会になったと確信している。



開花時期に撮った大学の周りに広がるアーモンド畑

1. 学習状況について

2024年4月8日から2024年5月18日までの6週間、英国ニューカッスル大学医学部にて研修を行った。配属先はGeneral Surgeryで、前半3週間はRodrigo Figueiredo先生のもとで移植外科での実習、後半3週間はFintan Bergin先生のもとで下部消化管外科の実習を行った。また先生方やニューカッスル大学事務局のご厚意で、消化器内科の内視鏡治療や感染症内科でも実習をさせていただいた。

移植外科では移植手術を中心とし、肝胆膵領域の開腹手術、腹腔鏡下手術、ロボット手術まで幅広く見学させていただき、多くの手術で術野に入って先生方の隣で学ばせていただいた。私の実習先であるフリーマン病院は、英国の中でも特に移植手術件数が多い病院であり、実習期間中も多くの移植手術が行われていた。移植件数が多いため移植臓器がクーラーボックスで運ばれていく様子をよく目にしたが、そうした光景は日

Newcastle University
6年 石川 悠地
2024/4/8~5/18



General SurgeryのFintan Bergin先生と



移植外科のRodrigo Figueiredo先生と



ニューカッスル大学医学部

本ではめったにみられないもので大変驚いた。前半3週間のうち1日間は内視鏡治療部門を見学させていただくことができた。ERCPやEUSといった日本でも多く行われている一般的な最先端治療ももちろん行われていたが、内視鏡での胃空腸吻合術や、胃膿瘍吸引術



ロンドン市内観光



ハリーポッターのロケ地

など、あまり日本では見られないような治療もあり、非常に勉強になった。

下部消化管外科では手術を見学することがメインであったが、病棟やICUへの回診、カンファレンスにも同席させていただいた。日本と最も大きく違うと感じたのは、回診やカンファレンスに、医師や看護師だけではなく、

薬剤師や栄養士といった幅広いコメディカルの職種の方が同席していたことである。英国は日本よりもチーム医療が進んでおり、医師がそれぞれのコメディカルの専門性をしっかりと尊重したうえで、お互いに議論したりアドバイスをしあいながら1人の患者さんの治療を進めていくことが、当たり前のこととして行われていることを強く感じた。

最終週では先生方のご厚意で感染症内科の見学をさせていただくことができた。感染症内科の見学を希望した理由は、日本と英国では流行する感染症の種類が全く異なることから、日本と英国の違いを学ぶのにとっても良い機会になると思ったからである。病棟管理では自分と同じ学年の医学生が当たり前の業務として患者さんの採血を上級医や看護師の力を借りずに行っていることにとっても驚いた。私も実習期間中に何度か採血に挑戦させていただいた。結核外来やHIV外来では、日本と英国の患者数の違い、治療方針の違い、感染原因の違いなど、日本の状況と比較しながら学ぶことができ非常に有意義な1週間となった。

今回の6週間の実習を通して、医療水準や手術のレベルなどは英国と日本であまり大きな差はなく、むしろ日本の方が優れていると感じる部分も多々あった。しかしながら、他の欧州諸国からの留学生も含めて、現地の医学生の高い積極性、そして1つでも多くのことを吸収しようという姿勢は大いに学ぶべきだと感じ

た。この6週間の留学を通して、これまでよりも積極的に学んでいくことができるようになったと感じた。日本でも残り9週間の医学実習Ⅱの実習が残っているが、海外研修で見た海外の学生のように、積極的に多くのことを吸収していくという姿勢を今後も忘れないようにしていきたいと思う。

2. 生活状況について

イギリスではニューカッスル大学の寮を拠点に生活を送っていた。前半2週間はイースターで春休み中であったため朝と夜は自炊をし、後半4週間は寮の食堂で朝食と夕食をとった。円安の影響とそもそもの日本との物価の違いもあり、お弁当を作って持参したりして乗りきるようにしていた。平日は毎日実習であったが、実習後の夜に、同じように留学している医学生同士や、ニューカッスル大学の学生たちとの交流会にも参加することができた。土日はエディンバラやロンドン、ウェールズといったイギリス各地に出かけ、観光を楽しんだ。どれも日本にはない光景ばかりでとても感動した。また私がオーケストラ部に所属しているということもあり、オーケストラやオペラ、バレエのコンサートにもいくつか行くことができ、貴重な経験することができた。

3. 後輩へのアドバイス

私は2年生から4年生までの学生生活が新型コロナウイルスの影響を受けており、その期間は留学もほとんど中止になっていたことから、留学に行きたいと考え始める時期が遅かったです。その分IELTSの対策もぎりぎりになってしまったため、後輩の皆さんで留学を考えている方は、ぜひ早めからIELTSの対策を始めてもらえたら、もっと余裕をもって留学に応募できるかなと思いました。また英語の勉強をある程度しっかりして留学に臨んだつもりでしたが、実際に現地に行ってみると思っていたよりも英語に苦労しました。医学英単語ももちろんですが、留学前に英語の準備をしっかりとしておく、より多くのことを学んで帰ってくるのではないかなと思いました。



現地の医学生との懇親会

令和6年7月入稿



教室便り

*** 今回から、教室ごとに隔年でお届けします ***

神経機能形態学

讃樹会の会員の皆様こんにちは。

神経機能形態学（旧第一解剖学）は、三木（教授）、鈴木（准教授）、太田（助教）、大給（助教）のフルスタッフで構成されています。昨年度から始まった医学部再開発に伴い、今年7月からは実習棟（築約43年）の改修工事が始まっています。私も含めて同窓の皆様が、基礎医学系実習でお世話になった学び舎が生まれ変わります。実習環境改善・設備DX化が学修効果を高めてくれるものと信じています。当講座の領域で言えば、ヒトの体の構造や機能は、数十年単位では変わりませんが、教育の方法は大きく変わりました。進歩する解剖学教育の潮流に合わせた展開をして、学習意欲が上がるような取り組みをしていきます。

いま、多くの学生が研究に来て来てくれています。今年は沖繩で開催された第129回日本解剖学会総会・全国学術集会解剖学会に、3演題を出し、うち2演題が学生の発表でした。また、年明けから3月末まで、ブルネイダルサラーム大学から留学生アマルさんを受け入れました。短期間でしたが、楽しく有意義な国際交流が出来ました。（三木 記）



分子神経生物学

2013年8月に山本が着任し、名称が脳神経生物学から分子神経生物学に変わって11年目を迎えています。現在スタッフ2名が、2名の大学院生とともに、医局の先生方との共同研究を進めながら、教育・研究に取り組んでいます。当研究室では自閉スペクトラム症・統合失調症などの精

神神経疾患や、アルツハイマー病などの神経変性疾患の分子病態の解明と、虚血性神経細胞死の分子機序の解析を主目的に、我々自身が世界に先駆けて見出し、その機能を明らかにしてきた因子群の解析を中心に、研究を進めております。昨年度は、医学部再開発の先陣を切って、講義棟の改修がおこなわれました。2度の引っ越しを伴う一大イベントでしたが、関係の皆様方のご尽力・ご協力のおかげをもちまして、無事終了させることができました。

小さな研究室ですが、オリジナリティーに立脚したアイデアを拠る所に、改修によって現代化されたインフラとコンパクトにまとめられた実験室を最大限利用して、基礎・臨床の先生方との共同研究を進展させつつ、教育・研究を進めています。（山本 記）

生化学

生化学教室は、前教授で香川大学学長の上田 夏生先生の後任として、2024年4月1日付けで着任した教授の岩部 美紀、宇山 徹准教授、佐々木 すみれ助教の3名の教員が中心となり、生化学の教育と研究を担当しています。学部学生も精力的に実験に取り組んでおり、1名の事務職員と共に抜群のチームワークで教育・実験を行っています。

教育活動では、医学科2年次の「生化学」の講義・実習をはじめ、1・2年次の早期医学実習、3年次の内分泌代謝ユニット、症候論、医科学研究、5・6年次の医学実習、臨床心理学科2年次の「生化学・分子生物学」など幅広く、学部および大学院教育を担当しています。

研究活動では、「Translational biochemistry」の実践を目指し、代謝性疾患を中心とした疾患の病態解明と医療への応用を目指した健康長寿研究に挑戦しています。脂質代謝酵素や膜受容体をターゲットにした肥満関連疾患・糖尿病に対する新規治療法開発、運動不足の状態をScienceで解決しようとする取り組みとして、AIやウェアラブルデバイスを組み合わせた新しく画期的な運動バイオマーカーの開発なども進めています。ムーンショット型研究開発事業、科研費の国際先導研究をはじめとする競争的資金のプロジェクトを通じて推進しており、国内外の共同研究も展開しています。私達は、バックグラウンドや経験を問わず、広く仲間を募っています。

香川大学、香川県のさらなる発展に全力を尽くしてまいります。讃樹会の諸先生にはお力添え賜りますよう、今後ともご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。（岩部 記）

ゲノム医科学・遺伝医学

ゲノム医科学・遺伝医学は、2024年1月に開設された新しい教室です。消化器外科医であった隈元が教授に着任し、分子細胞機能学から小川崇助教と8月から新メンバーに早田正和助教が加わり3名のスタッフで研究、教育、診療に取り組んでいます。研究は主に疾患と遺伝子異常の探索から診断薬や治療薬への橋渡しなど臨床でのゲノム・遺伝医療で課題となっているブラックボックスを解き明かしていきます。教育は、学部教育においては分子遺伝学から臨床遺伝医学、遺伝カウンセリング、がんゲノムまで幅広く、基礎と臨床がリンクしたトランスレーショナルな分野であることに興味を持てるよう取り組んでまいります。大学院生には、分子生物学的な実験を通して専門とする疾患の病態を遺伝子レベルで理解できることを目標に国内だけでなく国際学会での発表や論文の作成を指導します。診療は、病院の臨床遺伝ゲノム診療科で遺伝性疾患全般のゲノム解析や体質診断を通して予防医学の観点から地域住民の健康管理に貢献してまいります。

今後、このゲノム医科学・遺伝医学分野の発展のため尽力して参りますので、讃樹會の皆様のご支援ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。(隈元 記)

分子腫瘍病理学

当講座では2023年10月に4代目の教授として門田球一が着任、2024年4月には伊吹英美が助教として、紹慶咲千子が大学院生として講座の新メンバーに加わりました。講座名も腫瘍病理学から「分子腫瘍病理学」に名称変更され、新たな体制で講座運営を進めています。

分子腫瘍病理学教室では学内外の多くの研究室と共同研究プロジェクトを実施しており、老化、テロメア構造異常、染色体異常、核膜整合性異常を伴う様々な癌（膵臓、胃、大腸、肝臓、肺、乳腺、腎臓、脳、骨軟部）の研究や、オートファジーによる細胞死制御に関する研究を進めています。病理学研究のDX化に伴い、スライドスキャナーNanoZoomerやAI機能搭載解析ソフトHALO AIを活用し、人工知能による病理解析の効率化と数値化を目指した研究を展開中です。

教室としては、腫瘍細胞の進展に伴う形態変化や分子機構を解明し、癌の予防や診療の発展に寄与することを目指しています。病理学的研究に熱意を持った大学院生や研究生を国内外から募集していますので、ご興味を持たれた方は当教室へご連絡ください。(門田 記)

免疫学

免疫学講座がスタートして13年度目となりました。教員2名、技能補佐員1名、事務補佐員1名で教育と研究を進めています。助教1名が欠員中であり、補充の猶予期間が続いています。大学院生はおりませんが、マイペースで研

究に取り組んでおります。令和6年度も対面講義を行っております。実習だけはCOVID-19に対応するために見直した内容で実施しています。令和5年度の選択科目として、医学科3年生2名(課題研究)、2年生1名(早期医学実習Ⅱ)、1年生2名(早期医学実習Ⅰ)の合計5名が本講座を訪れ、様々な経験を積みました。学生諸氏の将来の研究に繋がれば良いと思います。研究の特色としては、希少糖による免疫抑制メカニズムの解明と応用研究などが挙げられます。新しいユニークな研究成果を積み上げていく所存です。今後ともよろしく願いいたします。(星野 記)

分子微生物学

分子微生物学教室は教員3名、事務補佐員1名、技能補佐員2名で微生物学の教育研究を行っています。大学院生は現在4名(2名が国費留学院生)で、元気に研究に取り組んでいます。教育面では3年生の微生物学の講義および実習、4年生の統合講義「感染症ユニット」を担当しています。臨床心理学科2年生の「微生物学・医動物学概説」の講義も担当しています。将来、感染症診療に当たる際に必要となる微生物の基礎知識や臨床的な重要項目を着実に習得できるよう教材の改良などに努めています。研究面では腸内および口腔の細菌叢(フローラ)の生理機能に影響を及ぼす環境因子の探索と疾病予防への応用に関する研究を行っています。次世代シーケンスによる口腔や腸内フローラの解析が容易になったことで、ヒトの常在フローラと疾病との関連についての研究が活発に行われています。当教室でも新しい解析技術を取り入れ、腸内フローラ研究をさらに推進し、社会に還元できるような研究成果を発信していきたいと考えています。(桑原 記)

公衆衛生学

スタッフは教員3名(平尾、Ngatu、神田)、事務補佐1名です。昨年に引き続き、多彩なバックグラウンドを持つ者が在籍しています。教育ではディスカッションや学外実習の機会を増やし、能動的な社会医学教育を行っています。香川県と共同で行っている「公衆衛生トークセミナー」も継続しており、国内からユニークなゲストを招いて、学生との質疑、相談等を行っています。引き続き、社会医学を目指す学生、若手医師の育成を続けていきます。学術活動としては、香川県小児生活習慣病健診、高松市健康都市推進ビジョン評価事業をはじめとする地元密着型の調査・研究、メタボ対策のためのサプリメント開発、がんサバイバーの労働生産性、緩和ケアにおける鍼灸治療の効果に関する研究などに取り組んでいます。またNgatu先生を中心に、今後の発展が期待されるアフリカ諸国との共同研究も推進中です。

ところで、教授を務める平尾は今年度で定年を迎えます。来年度から教室の体制が変わりますが、スムーズな事業継続できるよう努めてまいります。(平尾 記)

医学教育学

讃樹會の皆様にはいつもお世話になります。

今回の「教室だより」では医学教育学講座の医学科低学年への教育についてお伝えしたいと思います。高学年につきましては主として臨床推論を中心とした診断学を教育していますが、低学年では医師としての基礎である「プロフェッショナルリズム」や「コミュニケーション能力」、「多職種連携（チーム医療）の重要性」等をテーマに教育を行っています。医師としてプロであるためのコミュニケーション能力向上のために、NHK高松放送局のアナウンサーの方に講師として来て頂き「丁寧な言葉遣い」、「発音・発声法」、「インタビューの方法」などを講義して頂いたり、四国学院大学の演劇専門の先生からは演劇を通した「自己表現法」や「会話の重要性」あるいは「共感の方法」などを教えて頂いています。多職種連携教育では徳島文理大学や香川県立保健医療大学に出向いて薬学科、看護学科、放射線科や臨床検査学科での実習を行い、医療に携わるチームの構成員がどのような教育を経てプロになっているのかを実感してもらっています。また、1年生の11月から12月にかけては香川県内の病院やクリニック、あるいは高齢者施設を訪問させて頂いて、現場で働く医師がどのように診療しているかを見学してもらおうと同時に、多くの専門家から成り立つチーム医療がどのように機能しているかを勉強してもらっています。本実習においては毎年たくさんの讃樹會の皆様のお力添えを賜り、こころより感謝申し上げる次第です。低学年の学生は若さゆえに至らないところも多々ございますが、より良き医師の育成のために今後とも皆様の一層のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。（坂東 記）

血液・免疫・呼吸器内科学

讃樹會のみなさまにおかれましては、猛暑に加えて新型コロナウイルスの再拡大などご苦勞も多いかと拝察申し上げます。血液・免疫・呼吸器内科学教室の近況をご報告申し上げます。

門脇則光教授が講座を主宰され10年目となりました。加えて香川大学医学部附属病院長として次々と新しい改革を実行されています。救急体制充実のための内科スタッフ派遣の増員や、超音波センターの設立、オンライン予約システムなど沢山の施策により病院経営改善に尽力されており、教室員も一丸となってお支えしております。教室員の確保についても讃樹會会員の先生はもちろんの事ですが、他学の卒業生も加わって頂けるようになりました。香川県の医療体制における経験年数が浅い医師もおりますので、ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが是非とも温かく御指導頂けますようお願い申し上げます。

診療について特筆すべきは、昨年お伝えしました先進医療としての難治性血液悪性腫瘍に対するCAR-T細胞（患者さんの血液から採取したTリンパ球に、血液がん細胞を攻撃できるように「キメラ抗原受容体（CAR）」と呼ばれる特殊なタンパク質を遺伝子導入したTリンパ球）療法が軌道

に乗っています。この治療法により、従来の抗がん剤治療抵抗性の患者さんでも高い抗腫瘍効果が得られています。血液内科に加えて、膠原病・リウマチ内科、呼吸器内科スタッフも県内の患者さんや医療機関の先生方に、さらにお役に立てるよう尽力しております。県内外の讃樹會会員の皆様のご支援により、3診療科で4,625名（血液内科939名、膠原病・リウマチ内科2,599名、呼吸器内科1,087名）（内紹介患者：692名（血液内科155名、膠原病・リウマチ内科233名、呼吸器内科304名）、入院患者729名（血液内科190名、膠原病・リウマチ内科203名、呼吸器内科336名）を診療させて頂いております。今後も先生方のご期待に添えるよう、医局員全員で頑張ってお参ります。

以上近況報告をさせて頂きました。讃樹會の一層のご支援を賜りますよう教室員一同心よりお願い申し上げます。

（土橋 記）

消化器・神経内科学

消化器・神経内科では、正木勉前教授が令和6年3月をもって退官され、令和6年4月より第4代教授として小原英幹教授が就任しました。

私たちは「人・心・夢が集う教室」を目指し、日々切磋琢磨しながら診療・研究・教育に取り組んでいます。

1. 診療面では、「心のこもった確かな技術（卓越したアート）で、治す」を理念とし、良質で安全かつ高度な医療を提供し、大学病院としての使命を全うすることを目指しています。大学病院および関連病院には各分野の専門医・指導医が在籍し、常に連携を取りながら最先端の診療を行うとともに、地域に密着した医療を提供する努力をしています。
2. 研究面では、世界トップレベルの臨床に直結する研究を行い、「新規性のある研究の世界発信」を共通の理念としています。特に機器開発や異分野融合研究に力を入れており、国内外の医療機関との交流を通じて多機関共同研究を推進しています。今後は正木前教授が築いた基礎研究の基盤を活かし、基礎系・臨床系講座との横断的な研究を展開し、さらなる成果を目指していきたいと考えています。
3. 教育面では、香川県内外の多くの関連病院と連携し、積極的に人的交流を図りながら、大学病院および関連病院で幅広い臨床研修を提供しています。専門医および学位取得を積極的に支援し、必要なフォローアップを行っています。今後は学生や研修医向けのハンズオンセミナーなどを計画し、広範な交流を促進していく予定です。

新体制のもと、医局員一丸となって更なる発展を目指してまいります。讃樹會の皆様には今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。（田所 記）

精神神経医学

中村教授が当講座の教授に就任して20年目を迎えました。中村教授就任以降、香川県内の精神科医療の連携を図るために香心会が創設され、また、香川県との連携が進められ、地域医療精神医学講座が開設されました。精神科への入局者が増えると同時に精神保健指定医も増えております。香川県内の関連病院にも人材を派遣し、地域医療を支える一助となっております。2018年度からは新専門医制度が始まり、専攻医も増えております。

現在、認知症・児童思春期・摂食障害・睡眠障害・緩和ケアなど、精神科領域を広くカバーして診療を行っております。2024年からアルツハイマー型認知症治療薬レカネマブ（レケンビ®）の処方を開始しました。身体疾患を合併する患者様については、身体科の先生方には大変お世話になっております。逆に身体科からご紹介を受けることも多々あります。今後も、香川県の地域医療の支えとなるよう、医局員一同努力する所存です。讃樹會の先生方にはより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（野口 記）

周産期学婦人科学

香川大学母子科学講座は開学以来、安全で高度な周産期医療、婦人科疾患診療の提供を心がけ、関係する診療科と円滑なチーム医療ができる体制づくりを行ってきました。「日本一安全で安心できるお産や育児ができ、全ての女性の笑顔を守ること」を理念とし、その健康維持の増進をおこなっています。また、婦人科疾患での内視鏡手術、ロボット手術の導入や幅広い年代層の女性を対象としたホルモン関連の診療などその診療範囲は多岐に渡りますが、一般的診療から高度な医療まで対応することで今後も地域医療の中核としての使命を果たしていきます。日本では近年は出生数の低下が大きな社会問題となっています。これは国全体での傾向であり、地方ではその傾向がより顕著に現れ、香川県だけでなく四国全体の出生数も全国的な減少率を超えて低下しています。安全な周産期医療が出生率改善の一助になると信じ、これらの問題に向き合いながら、香川県の周産期医療体制が継続して維持できるよう専心していきたく考えています。

（金西 記）

心臓血管外科

堀井泰浩

山下洋一（准教授）、北本昌平（助教）、中川さや子（医員）、池田千晶（特別配置梓病院助教）

細谷裕太（四国こどもとおとなの医療センター出向中）

心臓血管センターの枠組みで、外科・内科がハートチームとして垣根なく協働し、内科で診断し、薬物療法やカテーテル治療を先行させ、適応となればわれわれ外科チー

ムが手術し、手術侵襲から脱した後は、再度内科チームで循環器治療を徹底するという、患者さん中心の医療を実践しています。

昨年から経カテーテル大動脈弁置換術TAVIを開始し、ステントグラフトTEVAR、EVARを含めて血管内治療を、山下准教授を中心に行うとともに、弁膜症に対するMICS治療も積極的に行なっています。

（堀井 記）

呼吸器・乳腺内分泌外科学

当教室では「心と身体に優しい外科医療の実践」を理念に、呼吸器外科と乳腺内分泌外科の臨床・研究・教育に取り組んでいます。

2022年4月に着任された矢島俊樹教授による新体制は3年目を迎え、さらなる発展の時を迎えています。2cm以下の小型肺癌に対する標準術式が「葉切除」から「区域切除」に変遷し、矢島教授着任後から300例以上の区域・亜区域切除術を施行してきました。技術的に難易度の高い区域・亜区域切除術を完全胸腔鏡下に施行し、根治性と機能温存の両立を目指しています。また、ロボット手術の術者は4名（プロクター1名）となり、胸腔鏡と同様にロボットにおいても複雑な区域切除術を積極的に施行しております。さらに、進行癌に対する免疫療法＋化学療法後の手術、他科と連携した拡大手術、血管気管支形成手術など、最後の砦として「根治を諦めない治療」を実践しております。

当教室には県内外に関連施設（高松市立みんなの病院、KKR高松病院、坂出市立病院、高知医療センター、倉敷中央病院、神鋼記念病院、明和病院、奈良県立医療センター）があり、医局員それぞれが各地域で活躍しております。今年度は矢島玲奈先生が乳腺内分泌外科の助教として着任され、活躍されております。

研究面では、当科から世界へ発信してきたICG併用赤外光胸腔鏡の研究に加え、腫瘍免疫の基礎研究を行っております。また、区域切除術の適応や亜区域切除術の有用性を検討する臨床試験などにも積極的に取り組み、世界へ発信できるよう日々取り組んでおります。

外科離れが叫ばれて久しいですが、働き方改革を推進し、学生や研修医に対しやりがいのある魅力的な仕事であることを伝え、外科を「持続可能」な科としていくことも我々の務めと考えております。定期的で開催しております「外科手術基本手技講習会」を今後も継続して開催し、外科の魅力を発信して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひいたします。

（松浦 記）

形成外科学

2017年4月に永竿智久先生が当教室5代目教授に就任され8年目となりました。診療、教育ともに益々活動範囲を拡大すべく日々邁進しております。

今年度は新入局者として川村洸司先生が仲間に加わりました。現在の診療体制は永竿教授、助教2名（木暮、玉井）、

医員6名（三柳、細川、福盛、十河、渡邊、川村）、の計9名となっています。また専攻医の教育として県内外の病院での研修を行っており、三豊総合病院、宮本形成外科（広島県）、箕面市立病院（大阪府）で計3名の専攻医が常勤として研修を行っております。さらに今年には三柳友樹先生が形成外科専門医を取得いたしました。益々の活躍が期待されます。

当教室では教授の専門領域である漏斗胸で全国トップクラスの症例数を誇るほか、唇顎口蓋裂、母斑・血管腫分野で豊富な症例経験を有しています。研究面においては工学解析やシミュレーションの医学応用を中心に研究活動を行っております。さらなる医局の発展を目指し臨床、教育、研究を進めてまいりたいと思います。今後とも形成外科教室をよろしく願いいたします。（渡邊 記）

脳神経外科学

今年4月は明るいニュースがありました。ここ数年は入局が0から2人となっておりましたが、10年ぶりに3人の新入局がありました！その中には二人の女性が含まれ、やや男性色の強かった医局が華やかになったような気がします。昨年度、専攻医7年目の二人は、専門医試験に無事合格し、脳神経外科専門医となりました。若手も順調に成長していております。

臨床においては、脳腫瘍、脳血管障害を2本柱に、三宅教授、川西准教授を中心として、県下で頼られる存在であるべく、generalな疾患は確実かつ安全に、高難度または新規治療も積極的に行っていくよう精進しています。救命救急センターとの協力体制が当科の売りでもあり、脳外緊急疾患への対応もぬかりありません。研究では、大学院生が中心となり、限られた資源を利用し、成果を世界に発信できるよう工夫をこらしています。（藤森 記）

耳鼻咽喉科学

大学では頭頸部腫瘍・耳科・鼻科・音声嚥下をそれぞれ星川、宮下、秋山、福村が中心となり行っております。臨床に関しては各分野とも県内の他病院に比べても高いレベルで診断・治療実施が可能であり、また研究においても各分野とも確かな実績を有しております。関連病院として坂出市立病院、三豊総合病院、さぬき市民病院、小豆島中央病院に常勤医師を派遣し、地域医療にも貢献できるような体制となっております。

本年度は森照茂が善通寺に新規クリニックを立ち上げ（2024年秋開業予定）、手薄だった西讃地区をカバーできるようになります。医局のマンパワーは減少しておりますが、若手の成長はめざましく数年後には今の上級医をしのぐに違いない逸材揃いです。さらに近年は特に星川教授を中心として医学教育にも力を入れており、数年後に今の努力が結実し優秀な医局員があふれてくるものと考えております。新入局者がいない状況が数年続いておりますが、今年度か

らは心機一転、勧誘・研究・臨床により一層邁進していくよう医局員は団結しておりますので、引き続きご指導、ご支援のほどお願いいたします。（文責 秋山）

麻酔学

2023年8月より荻野祐一先生が教授に就任され、1年が過ぎました。

今年度は、佐野村文音先生が、日本専門医機構認定麻酔科専門医と日本区域麻酔の検定試験に合格されました。おめでとうございます。

人事に関して、新医局員として末澤千紗先生、葉久鈴葉先生、小田志門先生の3名を迎えることができました。10月から奈良県総合医療センターへ国内留学された小川純先生が帰県されます。集中治療分野での新たな知見を得て活躍をしていただけるものと期待しております。次世代を担う世代の成長が楽しみです。

手術麻酔分野では、7月から全身麻酔の10室運用と定期手術の時間外延長を開始しております。病院を上げての前例のない取り組みであり、外科系診療科より人的応援をいただいで試行錯誤の毎日です。

集中治療分野では、手術数増加に伴うハイリスクな患者と院内急変患者に対応し高い稼働率を堅持しております。

ペインクリニック分野では、線維筋痛症や顔面痛に注力する方針です。

医局員一同、香川の医療に貢献して参る所存です。今年度ともご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

（岡部 記）

歯科口腔外科学

歯科口腔外科学教室は、三宅 実教授が教室責任者として10年目を迎え、10月より愛媛大学医学部口腔顎顔面外科学より雑賀斗先生を助教として迎える予定です。関連病院として、独立行政法人国立病院機構四国こどもとおとなの医療センターに岩崎昭憲、かがわ総合リハビリテーション病院に伏見麻央、高松赤十字病院に藤井史佳、愛媛県口腔保健センターに南佑子、和歌山県紀南病院に高尾健二郎が向出しております。現在当教室に12名の大学院生が在籍しており、学位取得に向け、基礎研究や臨床研究を行っております。また、4名の研修医も迎え、日々診療に取り組んでいます。

学会活動としては、5月に日本口腔ケア学会香川口腔ケアフォーラムを主催しました。日本口腔外科学会をはじめ、日本口腔科学会、日本口腔インプラント学会など数多くの学会に参加しており、若手医局員を含め、学会発表を積極的に行うようにしております。また、中井康博が日本口腔外科学会専門医・日本口腔インプラント学会専修医を取得しました。

診療面では、手術室静脈鎮静局所麻酔を増枠し、小外科手術において患者様のニーズにお応えできるようになって

おります。

今後も香川県内の歯科口腔外科診療における基幹病院として、チーム医療の充実やサーチマインドをもった医療人の育成に邁進してまいります。(中井 記)

臨床腫瘍学

2015年の当講座開設以来、本年で10周年を迎えました。この間にも免疫チェックポイント阻害薬の登場、その後に免疫チェックポイント阻害薬の併用療法が登場し始め、がんゲノムプロファイリング検査(CGP検査)の登場、などががん領域の興隆はすさまじい勢いで現在も続いています。このような時代のニーズに対応できる人材の育成が地域医療にとり必要とされています。この3年連続で新規入局者がございましたが、本年は叶いませんでした。しかし、本年からポリクリ生の受け入れも行い始め、当講座の社会的なニーズ、先進性をアピールできる機会を得られ、今後も地域に貢献できるがん専門医師を育成できればと努力してまいります。

臨床的には講座開設以来、徐々に治験の件数も増え始めており、本学から世界の医療をリードするような試験結果も生まれ始めています。8月からは再びとなりますがCGP検査のレポート作成まで当院で完結できるようになります。新規治療につながる診療、検査を当院で行うことができ、若手の育成にも多大なる貢献ができると考えます。緩和ケア領域においては、村上あきつ医師が当講座専属となりました。地域の緩和ケアを担う医師の教育も、現在の香川県の現状を踏まえば急務と考えており、これまで以上に緩和ケア領域をリードできればと思います。

最後になりますが、今後も引き続き皆さまの診療の一助となるよう励んでまいります。尚一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(大北 記)

放射線腫瘍学(放射線治療科)

2012年1月の活動開始以来、「高精度放射線治療の基礎的・臨床的研究の推進およびがん治療の将来を担う専門医の育成」を目標に掲げています。放射線治療専門医・指導医として柴田教授・高橋学内講師・穴田助教・西出医員が常勤しています。

臨床面では、新放射線治療棟において、最新の治療機(リニアック)が2022年5月から稼働しております。強度変調放射線治療(IMRT)・画像誘導放射線治療(IGRT)等に積極的に取り組み、前立腺癌・頭頸部腫瘍・脳腫瘍・子宮頸癌に対するIMRTだけでなく、肺腫瘍・脳転移・腎癌・脊椎転移に対する定位照射(いわゆるピンポイント照射)の実績を増やしています。小線源治療についても今年度末に新装置が納品されるため、子宮頸癌の腔内照射に加え、組織内照射も精力的に行う予定です。従来の通常照射も疎かにせず、年間450例前後の治療に全力を尽くして参ります。

研究面では、科研費にも採択されており、国内外の学会や英文論文で成果をコンスタントに発表しています。

関係各科の皆様には臨床や共同研究でお世話になっておりますが、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

(高橋 記)

薬剤学

薬剤学教室では、安心で安全な薬物療法の支援を行うために、適切なTDM解析手法の探索、抗がん剤の副作用評価と対策、医療安全に係る薬剤システムの開発などをテーマとして大学院生1名の指導を行いつつ医学部附属病院薬剤部門と連携の上、研究を行っています。

今後の展開として、臨床薬学の知識・技術を駆使した薬剤に関する新しい医療システムの構築や社会的要求の高い保険薬局との連携についての調査・研究により、地域の医療連携に貢献できるような業務および研究を展開したいと考えています。

すべての医療者が適正な薬物療法を実践出来るよう、学部生、大学院生への教育支援も行っておりますので、「讚樹會」会員の皆様には広くご指導ご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。(小坂 記)

健康科学

健康科学教室では、産婦人科医師の塩田と小児科医師の加藤が女性二人体制で、看護学科の教育・研究を行っています。学部教育においては、主に人体に関する基礎知識を学生に深めてもらうことを目的としており、将来リーダーとなって力を発揮できる看護師の育成を目指しています。大学院では、助産学コースの教育に携わり、国際的な視点からの講義に加えて、女性医学、漢方、乳幼児発達、母乳栄養に関する研究指導を行い、学術的思考を持ち即戦力となる助産師の養成を目指しています。また、看護学コースにおいても、健康イノベーションに寄与する研究を推進し、学位論文の作成を目指して研究指導を行っています。当教室の特徴は、臨床に近い研究が可能である点です。現在、博士前期課程に2名が在籍しており、後期課程も始動しております。先生方の施設におかれまして、大学院進学を目指すスタッフがいらっしゃいましたら、お気軽にご連絡いただけると幸いです。(加藤 記)

現住所、勤務先、役職、メールアドレスの変更、改姓などがありましたら必ずご連絡下さい。ご連絡は、讚樹會HP、メール、FAX、郵送いずれでも結構です。



香川大学医学部医学科同窓会讚樹會行き

(TEL・FAX 087-840-2291)

スマホはこちら

会員情報変更届

記入日 年 月 日

| | | | |
|--|---|-------|------------|
| 卒業年 | S・H・R・院 年 | 希望送付先 | 勤務先・現住所・実家 |
| 該当するものに○をお付けください | 開業医 / 産業医 / 勤務医 / 研修医 / 在校生 その他 () | | |
| ふりがな | | | |
| 氏名 (旧姓・旧名) | () | | |
| 現住所 | 〒 | | |
| | 公開 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> | TEL | FAX |
| | E-mail | | |
| 勤務先 | 名称 | 部署 | |
| | | 役職 | |
| | 〒 | | |
| 公開 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> | TEL | FAX | |
| E-mail | | | |
| 恒久的住所 (実家) | (氏名・続柄) 〒 | | |
| 公開 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> | TEL | FAX | |
| 連絡事項及びメッセージ  | | | |

※公開の可・不可にチェック を入れて下さい。

(事務局記入) 処理日 年 月 日

切り取り線

編 集 後 記

今号も、無事に皆さまのお手元に届けられることを嬉しく思います。私たちが共に学んだあの学び舎は新しく改修され素敵な空間となっています。そして、医学の現場で日々進化を続ける会員の姿を取り上げております。猛暑が続いた夏もようやく終わりを迎え、秋の気配が感じられる季節となりました。この時期になると、夏の疲れが出やすくなる一方で、爽やかな秋風に心地よさを感じることも増えてきます。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

最近注目を集めているのは、免疫療法の進展です。免疫療法は、患者の免疫システムを利用して癌を攻撃する新たな治療法として注目されています。特に、免疫チェックポイント阻害薬は、これまで治療が難しかった癌にも効果を発揮することが分かってきました。この分野は今後ますますの発展が期待され、私たち医療従事者としても目を離せないテーマとなっています。

また、遠隔医療の普及も見逃せません。コロナ禍を経て、遠隔医療は一時的な対策ではなく、日常診療の一部として定着しつつあります。地方での医療アクセス向上や、患者の負担軽減に寄与するこの技術は、今後も私たちの診療スタイルを大きく変えるでしょう。皆さまも、この変化をどのように取り入れているか、ぜひお聞かせいただきたいと思います。

これからも、私たちは医療の最前線で活躍する仲間たちと共に、知識を共有し合い、切磋琢磨していきたいものです。

あたらしく星川広史教授が讃樹会の会長に就任されました。また同窓生教授就任のご挨拶を、14期生の枝園忠彦先生（岡山大学 乳腺内分泌外科講座）と河口浩介先生（三重大学乳腺センター長／乳腺外科学講座）から頂きました。そして香川大学の小原英幹先生（消化器・神経内科学講座）と市来智子先生（総合診療学講座）から頂きました。退任の挨拶を正木勉先生（消化器・神経内科学講座）と舩形尚先生（総合内科学講座）より頂きました。卒業生の活躍はうれしい限りで、今後も各先生には我々をご指導いただきたく思います。讃樹会定期総会の開催にて西山医学部長をお招きし、『香大医、生まれ変わるために』の講演をいただきました。讃樹会としまでも明るい話題の多い一年になることを期待したいと思います。

さて、本号ですが、国外留学助成・研究助成／奨励受賞、支部会・懇親会の報告と多くの話題が記載されております。同窓生の関連病院便りに喜多村先生（2期）、藤森先生（19期）から寄稿いただきました。

毎号のことながら、ご多忙中にも関わらず寄稿してくださいました皆様、讃樹会会員、事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。更に親しまれるような誌面になるよう、微力ながら努力してまいります。秋は実りの季節でもあり、私たちもまた新たな知識と経験を実らせる時期です。本誌が、その一助となり、共に学び合える場であり続けることを願っています。

広報局長 谷 丈二（平成14年卒・17期生）

事務局からのお知らせ

〒761-0793 香川県木田郡三木町池戸1750-1 TEL 087-840-2291
E-mail mddousou@kagawa-u.ac.jp HP <https://dousoukai.site/sanjukai/>
讃樹会公式Facebook <https://www.facebook.com/sanjukai>

◇医学部祭開催日程 令和6年10月11日～10月13日（10月13日にはホームカミングディを実施します。）

◇医師賠償責任保険を年間通じて受け付けています（途中加入ができません）。

詳細は事務局にお問合せ下さい。資料をお送りします。

◇助成金公募のお知らせ：助成金申請の詳細は、讃樹会HPの「要項・ダウンロード」を参照下さい。

◆国外留学助成金公募

2024年度第2回国外留学助成金 2024年9月末日締切

2025年度第1回国外留学助成金 2025年3月末日締切

◆学会助成金公募 開催前年6月末日までに申請下さい。

◆準会員（医学科在校生）対象で、

「学生の国際交流助成」（帰国後1ヶ月以内）公募

「競争的資金」公募

◇変更連絡：現住所、勤務先、役職、メールアドレスの変更、改姓などがありましたら必ずご連絡下さい。

ご連絡方法は、讃樹会HPから入力、メール、変更届用紙をFAX、郵送いずれでも結構です。

